

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2025 年 *11-12* 月

「神の民のための賜物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「罪を負う偉大なお方の側に立つ」 3

朝のマナ

「神の民のための賜物」 4

Gifts for God's People

力を得るための食事

「きんぴら」 68

レシピ

お話コーナー

「アダム最後の誕生日(Ⅰ)」 70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

発行日 2025 年 10 月 11 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

罪を負う偉大なお方の側に立つ

「そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。『こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。』」（マタイ 5:2、3）

この言葉はいぶかる群衆の耳に、何か不思議で、新しいものとして聞こえるのである。…。その中には彼らの誇りにへつらい、彼らの野望をあおる何ものもない。しかしこの新しい教師には、彼らをとりえてはなさない力がある。神の愛のかぐわしさが彼の存在そのものから花のかおりのように流れ出る。…

すべての者は、この人こそ、魂の秘密を読みながらも、なおあわれみ深く人々に近づいてこられるおかたであることを直感的に感じる。彼らの心はイエスに向かって開かれる。こうして彼らが聞き入っていると、いつの時代にも人類が学ばなければならない教訓の意味を聖霊が彼らに説明される。（祝福の山 7,8）

心の貧しさを深く感じ、自分のうちに何もよいものがないと感じるすべての者は、イエスを見上げることによって義と力を見出すことができる。…イエスはあなたの貧しさを主のめぐみの富と交換するように仰せになる。わたしたちは神の愛を受けるにふさわしくない。しかしわたしたちの保証人であるキリストはそれにふさわしく、また彼に来るすべての者を豊かに救うことができになるのである。あなたの過去の経験がどうあろうと、また、現在の状況はどんなに落胆させるものであっても、弱く、力なく、気落ちしたままでイエスに来るならば、わたしたちのあわれみ深い救い主は、遠くからあなたを迎え、その愛のみ腕をあなたにのぼし、その義の衣をあなたに着せられる。イエスはご自身の品性の白い衣をわたしたちに着せて、父なる神に紹介される。イエスは父のみまえてわたしたちのために嘆願される。そしてわたしはすでに罪人の代わりになりました、このわがままな子をごらんにならないで、わたしを見てくださいと言われる。（祝福の山 10,11）

イエスはどの魂の事情もご存じである。罪びとの罪が重ければ重いだけ、救い主を必要とするのである。キリストの神聖な愛と同情心は、敵のわなにかかって、最も望みのない状態になった者に、まず向けられる。…

今日、彼はあわれみの座に立って、その助けを求める人々の祈りを神にささげておられる。キリストは悔いて泣く者をひとりとして、退けるようなことをなさらない。ゆるしと回復を求めて主のもとに来るすべての者を、惜しみなくゆるしてくださる。…

キリストは神であり、また人であるご自分の性質に、彼らを結合させてくださる。その人々は、神このみ座から出る光の中に立ち、罪を負う偉大な御方の側に立つのである。（ミストリー・オブ・ヒーリング 60, 61）

「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。」（ローマ 8:31）

神の民のための賜物

Gifts for God's People



11-12 月

11 月 靈感を受けた伝達能力

12 月 徳を高め、一致、完全！

万人に通じる言語

「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。この日は言葉をかの日につたえ、この夜は知識をか夜につげる。話すことなく、語ることなく、その声も聞えないのに」(詩篇 19:1～3)

神がわたしたちにご自身を知らせようとし、ご自分とのまじわりに入らせようとしておられる方法は多くある。自然は止むことなくわたしたちの感覚に語りかける。(クリスチャン教育 54)

地上をおおっている美は、神の愛のしるしである。われわれは、それを万古不易の山、壮大な樹木、開くつばみ、優美な花に見ることができる。万物は、神について語っている。(人類のあけぼの上巻 23)

開かれた心は神のみ手のわざに見られるこのお方の愛と栄光に印象を受けることができる。聞こうとしている耳は自然の働きを通して神のメッセージを聞いて理解することができる。神がわたしたちの見えるところに示しておられる自然界の日光の中に、さまざまな事物の中に教訓がある。緑の野原、非常に高い木々、つばみや花々、移りゆく雲、降る雨、さらさら流れる小川、天にある太陽、月、星などはすべて、わたしたちの注意と瞑想をうながし、それらすべてをお造りになった神を知るようにとわたしたちに命じる。自然界のさまざまな事物から学ぶべき教訓は以下のことである。それらは創造主のみ旨に従順である。それらは決して神を否定せず、このお方の意志のどのような表れに従うことも拒まない。墮落した人類だけが自分たちの造り主に完全に従うことを拒むのである。彼らの言葉と働きは神と一致しておらず、このお方の統治の原則に反抗している。……自然界にはあなたの造り主を愛し、あがめるようにとあなたを導くものがある。(教会への証 3 巻 333, 334)

また、わたしたちが耳を傾けさえすれば、神の創造のみわざは、従順と信頼の尊い教訓を教えている。広漠たる天空にあっても、昔から定められた軌道を進む星より、いと小さき原子に至るまで、自然界のものはみな創造者のみ旨に従っている。神は、創造されたすべてのものを守りささえておられる。広い宇宙の無数の諸世界をささえられる神は、同時になんの恐れもなくさえずっている小さなすめの必要をも顧みられるのである。(キリストへの道 116)

11月2日

わけのある種々の言語

主は「言われた、『民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう。』こうして主が彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建てるのをやめた。」(創世記 11:6 ～ 8)

ノアの子孫の数が増えたとき、背教があらわれた。神の律法の抑制を捨て去りたいと思った者たちは、エホバを礼拝する者たちから離れようと決心した。彼らは一つの体で結びついた社会を保ち、ゆくゆくは全地を含む君主政治をうち立てようと決心した。彼らはシナルの平原に町を作り、その中に……洪水がその頂に達することができず、なにももの押し流すことのできない巨大な……塔を建てようと決意した。このようにして彼らは自分自身の安全を確保し、神から独立しようと思った。

この連合は神に対する謀反の結果生じた。シナルの平原の住民は神の栄光のためではなく、自己を高めるために自分たちの王国を設立した。彼らが成功していたなら、義を追放し、新しい宗教を始めることによって、巨大な権力が支配力を握っていたことであろう。世界は混乱させられたことであろう。間違った理論が神の法令への忠誠から人々の思いをそらし、エホバの律法は無視され忘れ去られたことであろう。……このときに神のみまえに自らへりくだった人々がいて、このお方に叫んだ。「ああ神よ、あなたのみ事業と人間の計画や方法の間に介入してください」と彼らは嘆願した。……建設者の目的を失敗させるために天使が送られた。……

今の時代、主は、ご自分の民が地のいたるところに分散することを望んでおられる。彼らは植民地を建設すべきではない。弟子たちがエルサレムに大人数のままとどまる気持ちになっていたとき、彼らに迫害が来るのが許され、彼らは人の住む世界の全面に散らされた。

警告と懇願のメッセージが何年も、主人であるお方の収穫地に入り、魂のために無私の働きをするようにと強く勧めつつ、わたしたちの民にもたらされている。(教会への証 8 巻 213 ～ 215)

すべての国民に伝えるために

「そして、神は教会の中で、……種々の異言を語る者をおかれた。」(コリント第一 12:28)

わたしたちの前には大いなる働きがある。世界は警告を受けるべきである。真理が異なる言語に翻訳されなければならないが、それはすべての国民が純潔で命を与える感化力を享受するためである。この働きは、わたしたちが保管するようにと神が委ねておられるタラントをすべて用いることを命じる。このお方は、わたしたちが他の人々の思いに感化力を及ぼすことができる能力をわたしたちに与えておられる。わたしたちには筆に、印刷物に、声に、財布に、魂の聖化された愛情の中にタラントがある。このお方はわたしたちにそれらを貸しておられ、それらを活用することに対して、一世に対するわたしたちの義務を忠実に遂行することに対して—わたしたちに責任を課しておられる。(レビュー・アンド・ヘアルド 1884 年 5 月 13 日)

警告が全地のすべての人々に与えられなければならない。わたしたちの書物は多くの異なった言語に翻訳し出版されるべきである。わたしたちは、信仰によって英語、ドイツ語、フランス語、デンマーク、ノルウェー語、スウェーデン語、イタリア語、ポルトガル語、そのほか多くの言語で出版物を増やしていかなければならない。そして全国籍の人々が、彼らもその働きに参加できるように、啓蒙され教育されるべきである。(教会への証 7 巻 160)

ある場合には若い人々が外国語を学ぶことは必要である。彼らは毎日言語を勉強するために一定の時間を当てると同時に、人々と交わることによってこのことに最も成功することができる。しかしながらこれは伝道分野に入り、適切な訓練によって働き人になることのできる者の教育の準備として必要な段階に限るべきである。さまざまな国の人々にその母国語で語ることのできる人々が、奉仕に入手するように奨励されることが重要不可欠である。外国語を学ぶことは中年男性にとって大変な仕事であり、全力を傾けても、有能な働き人となるほど即座に正しく語ることは、ほとんど不可能である。(同上 5 巻 392)

わたしたちの学校出身の学生が多く出ていき、自ら語学を学び、他国語の人々に聖書を開いている。これはすばらしい働きであり、まさに主が彼らにさせたいと望まれる働きである。(レビュー・アンド・ヘアルド 1909 年 3 月 25 日)

11月4日

即座の翻訳

「すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。さて、エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいたが、この物音に大ぜいの人が集まってきて、彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いてあっけにと取られた。そして驚き怪しんで言った、『見よ、いま話しているこの人たちは、皆ガリラヤ人ではないか。それなのに、わたしたちがそれぞれ、生れ故郷の国語を彼らから聞かされるとは、いったい、どうしたことか。』」（使徒行伝 2:4 ～ 8）

先端が分かれた火の舌の形をしており、集まっていた人々の上にとどまっている聖霊は、以前には彼らが知らなかったいくつかの様々な言語を流暢（りゅうちょう）に話すようにと彼らに与えてくださった賜物の象徴であった。そして火があらわれたことは、彼らが労したいと願っていた熱い熱意を示していた。（預言の霊 3 巻 266）

ユダヤ人たちは散らされた期間に、人が住むほとんどすべての場所へ散らされ、異境の生活の中でさまざまな違った国語を話すことを学んでいた。この時、これらのユダヤ人の多くがエルサレムに来て、その時行われていた宗教の祭りに出ていた。そこにはあらゆる国語を話す人々が集まっていた。このように言葉がいろいろ異なっていたことは、福音宣伝のためには非常な妨げとなったはずであった。そこで神は、不思議な方法で弟子たちの不足を補われたのである。聖霊は彼らが一生かかってもなし遂げられないことを彼らのためになさった。弟子たちは今、自分たちの働きかけている人々の言語を正確に話して、福音の真理を広く宣伝することができた。この奇跡的な賜物は、彼らの任務が天の認印を押されたものであることを世に示す確かな証拠であった。この時から弟子たちの言葉は、母国語で語ろうと、外国語で語ろうと、純粹で単純で正確であった。（患難から栄光へ上巻 34, 35）

偽物を避ける

「すると、どうしたらよいのか。わたしは霊で祈ると共に、知性でも祈ろう。霊でさんびを歌うと共に、知性でも歌おう。……一万の言葉を異言で語るよりも、ほかの人たちをも教えるために、むしろ五つの言葉を知性によって語る方が願わしい。」
(コリント第一 14:15, 19)

ある人々は彼らが賜物と呼び、主が彼らを教会の中におかれたというものを働かせる。彼らは人間だけでなく主や全天も知らない、彼らが異言と呼ぶ意味がなく理解できない支離滅裂な言葉を持っている。そのような賜物は犬欺瞞者に手伝ってもらった男女が作ったものである。狂信、偽りの興奮、偽りのおしゃべり、騒がしい儀式は、神が教会に置かれた賜物であると考えられている。ある人々はここで欺かれている。これらの実はすべて願わしいものでなかった。「あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう」(マタイ 7:16)。狂信と騒音は、信仰の特別な賜物であると考えられてきた。ある人々は強力な幸福な時間がないと、集会に満足しない。彼らはこのことのために働き、感情の興奮をおこさせる、しかしそのような集会の影響力は益がない。感情の幸福な高揚が過ぎ去ると、彼らの幸福は正しい源から来ていなかったのも、彼らはその集会の前よりも低く沈む。(教会への証 1 巻 412)

ある人々は、他の人々が持っていない賜物を持っていると考えて喜び、そのことで大得意になる。神がご自分の民をそのような賜物から救い出してくださるよう願う。これらの賜物は彼らのために何をするのであろうか。彼らはこれらの賜物を働かせることによって信仰の一致へと至るのであろうか。そして彼らは、真理の神が彼らと共におられることを未信者に確信させるのであろうか。これらの異なった見解をすべて信じ、集まっては少なからず興奮し、わけのわからないことを言っているこれらの不調和の人々については、彼らの光が輝くままにさせなさい、そうすれば未信者は次のように言うであろう、これらの人々は正気ではない。彼らは偽りの興奮で有頂天になっており、わたしたちには彼らに真理がないことが分かる。そのような者は罪人の道に真正面から立ちはだかつており、彼らの感化力は効果的に男女を安息日から引き離す。そのような者は自分たちの働きに応じて報いを受けるようになる。神に願うのは、彼らは改革されるか安息日を放棄するかである。そうすれば彼らが未信者の道に立ちはだかることはない。(霊的賜物 4 巻 159)

11月6日

はっきりと語る

「もしラッパがはっきりした音を出さないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか。それと同様に、もしあなたがたが異言ではっきりしない言葉を語れば、どうしてその語ることがわかるだろうか。それでは、空にむかって語っていることになる。」(コリント第一 14:8, 9)

舌の賜物に関してパウロが示した原則は、祈りや集会における声の用い方にも適用できる。わたしたちは、あなたがたのだれ一人としてこの点に欠点のある人が、公の祈りを捧げることや、またキリストの力と愛を証するのをやめてほしいとは思わない。わたしはあなたを沈黙させるためにこの言葉を書いているのではない。なぜならわたしたちの集会ではすでにあまりに多くの沈黙があるからである。しかしあなたは自分にこの賜物を与えてくださったお方に、あなたの声を捧げることができ、あなたが述べることによって教会を啓発することができるために声を向上させる必要があることに気づくことができるようにと、わたしは書いているのである。もしあなたが低いはっきりしない声で語る習慣を身につけているなら、それを欠点とみなし、克服するために熱心な努力をしなければならない。それはあなたが神に誉れを帰し、神の子らを啓発することができるためである。

礼拝集会で、わたしたちの声は祈りと賛美によって天父への敬愛を表現すべきであり、それはわたしたちが単純さと真理のうちに、聖潔の美のうちに神を礼拝していることをすべての人が知ることができるためである。罪と無知の世界において、言葉の賜物、また人の歌声は、わたしたちを愛し、わたしたちのためにご自身を与えてくださったお方をほめたたえるために捧げられるとき、実に尊い。言葉の賜物は非常に乱用されており、その計画された目的から大きく歪められているが、天の王の子であると主張する人々は自分たちの責任に目覚め、かつてなかったほどにこの尊いタラントを用いよう。だれも「わたしは祈る必要はない。他の人はわたしの祈りを聞いていないのだから」とは言わず、むしろ「低いはっきりとしない口調で話すこの神を辱める習慣に打ち勝つ努力を熱心にしよう。そして耳の聞こえにくい人々にすら、わたしの声が聞こえるように自分を訓練しよう」と言いなさい。神の奉仕に関心を増し加えることができるためにあなた自身を訓練し神の子らを啓発するのは価値のあることではないだろうか。(クリスチャン教育 130, 131)

言葉の賜物を培う

「正しい者の舌は精銀である、悪しき者の心は価値が少ない。正しい者のくちびるは多くの人を養い、愚かな者は知恵がなくて死ぬ。」(箴言 10::20, 21)

感謝、賛美、喜びの声は天で聞かれる。神の子らの声は天のみ使いらの声の一つになる。(クリスチャン教育 130, 131)

話す能力は改め、清められる必要がある。会話の科学に教育をほどこすべきであると主は命じられる。この才能は大いに乱用され、ゆがめられてきた。それは、神のみ名に栄光を帰すために用いられるべき、このお方からの尊い賜物とされてはこなかった。言葉は善のためにも悪のためにも、命から命にいたる香りにも死から死にいたる香りにもなる力である。キリストに奉仕をしたい者は適切に選んだ言葉と話さなければならない。沈黙の方が良いときのゆきあたりばったりの言葉、軽率な俗っぽい言葉、おしゃべりのためのおしゃべりは罪である。もともと言葉数の多い者は、彼らが生き、出入りしている社会に少しも健全な感化力を働かせない。聖書の宗教は自慢そうに見せびらかすのではなく、良い言葉と働きの中で静かに実践すべきである。(話と歌における声 30, 31)

わたしたちの中には、苦労も手間取ることもなく外国語を学び、他国の人々に真理を宣布する資格を得ることのできる者がいる。初期の教会において伝道者たちは、彼らが究明することのできないキリストの富を宣布することを命じられたその言語の知識を奇跡的に授けられた。そしてもし神がその当時ご自分の僕を喜んで助けてくださったのであれば、生来外国語の知識を持ち、また適切な励ましがあれば自国の人々に真理のメッセージを伝える人々を資格ある者にしようとするわたしたちの努力に、このお方の祝福が注がれることを疑うことができようか。(教会への証 5 巻 391)

わたしたちは、キリストの代理者として浪費する時間はない。わたしたちの努力は、光が非常に豊かな状態でありがたく思われていない数箇所に限定すべきではない。真理の光は多くの人々、国民、言語に示されるべきである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1903 年 7 月 7 日)

11月8日

教えをうけた者の舌

「主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ」（イザヤ 50:4）

神はその心が真理に対して開いており、導きを切望している人々に感銘をお与えになる。このお方はご自分の代理者に、「イエスの愛のこのこと、あのことを語りなさい」と仰せになる。愛と優しさのうちにイエスのみ名が述べられるや否や、神の御使たちが心を和らげ従わせるために近づく。（教会への証 6 巻 339）

真のクリスチャンはたえずキリストを認める。彼はつねに快活で、苦しむ者に希望となぐさめの言葉を語る用意ができている……。

聖書のひと聖句は、人間の一万もの考えや議論よりもはるかに価値がある。神の方法に従うことを拒む者は、ついには「わたしから離れ去れ」との宣告を受ける。しかしわたしたちが神の方法に服従するとき、主イエスはわたしたちの思いを導き、わたしたちの唇を保証で満たしてくださる。わたしたちは主にあって、このお方の大能の力のうちに強くなることができる。キリストを受け入れることにより、わたしたちは力をまとう。内に住んでくださる救い主は、ご自分の力をわたしたちの資産として下さる。真理が取引によってわたしたちの蓄えとなる。不義は生活の中に見られない。わたしたちは真理を知らない人々に折にかなった言葉を語ることができる。心の内にあるキリストのご臨在は命を与える力であり、全存在を強くする。（同上 7 巻 70, 71）

熱心に努力することによって、だれでも、よくわかるように読み、音量のあるはっきりした丸い声で印象深く語ることができる。こうすることによって、わたしたちは、キリストのために働く者として大いに効果をあげることができる。

すべてのクリスチャンは、キリストの無尽蔵の富を他の人びとにのべ伝えるために召されたのである。であるから、わたしたちのことばを完全にするように努めなければならない。聞く人の心を引きつけるような方法で神のことばを語らなければならない。神は、人間という通路がつたないものであることを望まれない。天からの流れが、人間を通していくときにその人のために、それが軽んぜられたり、価値が低められたりすることは、神のみ旨ではない。

わたしたちは、完全な模範であるイエスをながめなければならない。そして、聖霊の助けを仰いで、神の力によって、完全な働きをすることができるようになるために、すべての器官を発達させるように努めなければならない。（キリストの実物教訓 310, 311）

恵みにより、塩で味付けられている

「いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりひとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」(コロサイ 4:6)

クリスチャンの会話は、救い主がおいでになる天のことでなければならない。天の事柄を瞑想するのは有益であり、聖霊の平安と慰めがつねに伴う。わたしたちの召しは聖なるものであり、わたしたちの告白は高められる。神は良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして精錬しておられる。このお方のみかたちがわたしたちの上に完全に反映される。……真理がわたしたちの心と生活に聖化させる感化力を持つとき、神の性質にあずかるものとなり、世にある欲望による墮落をまぬかれることによって、わたしたちは神に受け入れていただき、地上でこのお方に栄光を帰す奉仕をすることができる。

ああ、主人であるお方がご自分の僕と精算をするために来られるとき、どれほど多くの者が準備のできていないことを見出されることであろうか。多くの者はクリスチャンを構成するものについて貧弱な考えしか持っていない。自己義はそのとき役に立たない。キリストの義を身につけているのを見出される者のみ、このお方の霊を吹き込まれ、心と生活が純潔で、このお方が歩まれたように歩む者のみがテストに耐えることができる。その会話は聖なるものでなければならず、そのとき言葉は恵みによって味付けられる。(教会への証 2 巻 317, 318)

あなたが接触する人々の中には、粗野で礼儀正しくない者があるかもしれないが、そうだからといって、あなた自身は少しでも礼儀正しさを欠いてはならない。自らの自尊心を保ちたいと望む人は、不必要に他人の自尊心を傷つけないよう注意しなければならない。この法則は、もともと愚鈍で、もともと失敗ばかりする人に対して、神聖に守らなければならない。あなたは、神がこれらの一見みこみのなさそうな人々に何をおさせになるつもりであるか知らないからである。このお方は過去に同じように見込みがなく魅力もない人々を、ご自分のための大いなる働きをするために受け入れてこられた。心に働きかけるこのお方の御霊は、あらゆる能力を活発な活動へと目覚めさせてきた。主はこれらのざらざらした荒削りの石のうちに、嵐と熱と圧迫のテストに耐える尊い材料をご覧になった。神は人が見るようにはご覧にならない。このお方は見えるもので判断なさらず、心を探り正しく判断なさる。(福音宣伝者 122, 123)

11月10日

答える用意ができている

「ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。しかし、やさしく、慎み深く、明らかな良心をもって、弁明しなさい。そうすれば、あなたがたがキリストにあって営んでいる良い生活をそしめる人々も、そのようにののしったことを恥じるであろう。」(ペテロ第一 3:15, 16)

わたしたちは、自分たちがセブンスデー・アドベンチストであることを隠すべきではない。真理は、わたしたちの行動が真理の原則と調和していないために、わたしたちを恥じるかもしれないが、わたしたちが真理を恥じる必要は決していない。機会があるごとにあなたの信仰を告白しなさい。(教会への証 6 巻 81)

一人びとりが救いの計画の大いなる真理を理解するよう努力すべきであるが、それは自分の望みについて説明を求める一人びとりに弁明のできる用意をするためである。あなたは、アダムが楽園を失ったのと同じ罪を犯して天を失うことがないように、何が彼の墮落の原因となったかを知るべきである。あなたは父祖と預言者たちの生涯、また過去における神の人に対する取り扱いの歴史を研究すべきである。なぜならこれらの事柄は「世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のため」に書かれたからである(コリント第一 10:11)。わたしたちは神の教訓を研究し、それらの深みを悟るよう努力すべきである。それらの重要性和不変性をはつきりと見るまで瞑想すべきである。贖い主の生涯を研究しなければならない。それはこのお方が人にとって唯一の完全な模範であられるからである。わたしたちはカルバリーの無限の犠牲を熟考し、罪の恐るべき罪深さと律法の義を見つめるべきである。あなたは贖いという主題を集中して研究することにより、強められ気高くされる。神のご品性を悟るあなたの悟りは深くなり、救いの計画全体があなたの思いにはつきりと明らかになり、あなたは自分の神聖な任務をよりよく果たすことができる。徹底的な罪の自覚から、あなたはそのとき、十字架上のキリストの死によって明らかにされた律法の不変的な性質について、罪のきわめて悪意に満ちた性質について、そして天地における神の統治のさだめに対する将来の従順を条件にイエスを信じる人を義認することにおける神の義について証することができる。格言、哲学、人間の学説の代わりに、人々がみ言葉を説いていたなら、さらに幾千もの人々が救われていたであろうに。(ビュー・アンド・ワールド 1888 年 4 月 24 日)

わたしたちの言葉を見張る

「主よ、わが口に門守を置いて、わがくちびるの戸を守ってください。」(詩篇141:3)

わたしはU兄弟の妻の場合を示された。彼女は正しいことをしたいと願っているが、自分や友人に大いに問題を引き起こす欠点がある。彼女はあまりにもしゃべりすぎる。彼女は神の事柄における経験が不足しているため、彼女が改心し、思いを新たにすることによって変えられないかぎり、終わりの時の危難のただなかで立つことはできない。心の働きが必要である。そのとき舌は聖化される。罪深い避けるべきおしゃべりが多くある。彼女は、自分の言葉が邪悪な働きをすることがないように、自分の唇の戸の前に厳密な門守を置き、くつわをはめるように自分の舌を守るべきである。彼女は、他人の特質をいつまでも考えて、他人の弱点を発見し、他人の弱点について話すのを止めなければならない。だが、それでも、そのような会話は非難すべきである。それは無益であり、まったく罪深いことであって、悪にしか向かわない。キリストに従う者であると公言する者がこの行動を続けると、敵が働く戸を彼のために開けることになることを、敵は知っている。

わたしは姉妹たちが共に話す機会のあるとき、ほとんどの場合サタンが同席するのを見た。なぜなら彼は仕事を見つけるからである。彼はそばに立って思いを興奮させ、自分の得た有利な立場を最大限に利用する。彼は、これらの陰口やうわさ話、秘密を漏らし、品性を分析することが、魂を神から離れさせることを知っている。それは霊性と静かな宗教的な感化にとって死である。U姉妹は自分の舌をもって大いに罪を犯す。彼女は自分の言葉によって、善への感化を及ぼさなければならないのに、しばしば手当たり次第に語る。ときに彼女の言葉は事態の上にたえがたいほど異なった解釈をほどこす。ときには大げさである。そして虚偽の陳述がある。虚偽を語る意図はないのだが、あまりにも長々と多く語り、また無益なことについて語る習慣にふけてきたために、彼女は自分の言葉に不注意で無頓着になってしまった。そして、しばしば自分でも何を言っているのかわかっていないのである。これが、彼女の持ちえたはずの善への感化力をまったく破壊してしまう。この面において、完全な改革がなされるべき時である。(教会への証 2 巻 185, 186)

あなたがイエスと御使たちの前で言わないようなことは何も言うてはならない。(ユース・インストラクター 1903 年 1 月 1 日)

舌を制する

「もし人が信心深い者だと自任しながら、舌を制することをせず、自分の心を欺いているならば、その人の信心(宗教)はむなしきものである。」(ヤコブ 1:26)

[ヤコブ 1:26 参照]。多くの人が量りで測られ、非常に重要なこの事柄において足りないことが見つけられる。この規則に従って歩むクリスチャンはどこにいるであろうか。だれが悪いことを語る者に反対し、神の側を取るであろうか。だれが神を喜ばせ、口に門守、絶えず門守を置いて、唇の戸を守るであろうか。だれの悪口も言ってはならない。だれの悪口も聞いてはならない。もし聞く人がいなければ、悪口を言う人はいない。もしだれかがあなたのいるところで悪口を言うなら、彼を止めなさい。たとえ彼の態度がひじょうに穏やかで、口調が優しくても、彼の言うのを聞くことを拒みなさい。彼は愛情を公言ながら、なおひそかな暗示をほのめかし、暗闇の中で品性を鋭く傷つけることができる。(教会への証 2 巻 54)

クリスチャンは自分の言葉に関して注意深くなければならない。友人の一人から他の人への好意的でないうわさを決して伝えてはならない。とくに彼らの間に一致が欠けているのに気づいているなら、なおさらである。あたかもあなたが他の人々は知らないことを、この友人やあの知り合いについて、あたかもたくさん知っているかのようにほのめかしたり、暗示を与えたりするのは残酷である。そのような暗示はさらに進んで、誇張しない方法で事実を率直に話すよりもっと好意的でない印象をつくりだす。キリストの教会はこれらのことによって、どれほど害を受けてきたことであろうか!教会員の一貫性のない不注意なふるまいが教会を水のように弱くしている。信頼が同じ教会のメンバーによって裏切られているにもかかわらず、その罪を犯した者に害をなす意図はなかったのである。会話の主題を選ぶ知恵が不足しているために、多くの害を及ぼしている。会話は霊的なまた神の事柄でなければならない。しかし、その逆であった。もしクリスチャンの友人との交わりが、おもに心と意思の向上のために捧げられるなら、後で悔やむことなく、その会談を心地よい満足をもってふり返ることができる。しかしその時間が軽率でむなしきおしゃべりに費やされ、尊い時間が他人の生活と品性を分析することに用いられるなら、親しい交流が悪の源であることがわかり、あなたの感化力は死から死にいたる香りとなる。(同上 186, 187)

悪い言葉への道を防ぐ

「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。」(エペソ 4:29)

わたしたちは悪い言葉をいっさいわたしたちの口から出してはいけないとの勧告を受けている。しかし悪い言葉は単に卑しむべき、下品な何かではない。思いからキリストのみ姿をおおいかくすような交わり、魂から真の思いやりと愛をぬぐい去るような交わりは、何でもそうである。それはキリストの愛が表されていない伝達であり、むしろキリストに似ていない品性の言葉である。(SDA バイブル・コメント [E.G. 叔父・コメント] 6 巻 1117)

人の誤りを正し、改めさせようとする場合、ことばに気をつけなければならない。ことばは命に至る命の香りともなれば、死に至る死の香りともなる。人を譴責したり、勧告したりするときに、傷ついた魂をいやすのにはふさわしくない鋭いきびしいことばを出す人が多い。このような思慮に欠けた発言によって、心を傷つけ、誤った人を反抗的にさせることがよくある。真理の原則をのべ伝えるものは、すべて、天からの愛の油を受ける必要がある。どんな場合であっても、譴責のことばは、愛をもって語らなければならない。そうするならば、わたしたちのことばは、人を怒らせたりしないで、改革をうながすことができる。キリストは、聖霊によってわたしたちに、活力と能力を供給してくださる。これがキリストのお働きなのである。

一言でさえも、無分別に言ってはならない。キリストの弟子の口からは、悪口や不まじめな話や、つぶやきやけがらわしいことを思わせることばが出てはならない。使徒パウロは、聖霊に動かされて、「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはならない」と言った(エペソ 4:29)。悪いことばというのは、よこしまなことばだけを言うのではない。それは、聖なる原則と清く汚れない信心に反する表現をさしている。これは、不潔なことを暗示したり、ひそかに悪をほのめかしたりすることをも含んでいる。これらのことは、直ちにしりぞけないならば、大きな罪におとし入れられるものである。

汚れたことばとたたかうことは、すべての家庭とすべてのクリスチャン個人々人の上に負わせられた義務である。愚かな話をする仲間の中にわたしたちがはいったときには、できるだけ、話題を変えるように努力することが、わたしたちの義務である。神の恵みの助けによって、静かに一言注意をするか、または、有益な話題を提供して人びとの心をその方に向けるべきである。(キリストの実物教訓 312, 313)

11月14日

だれがあなたに口を授けたのか

「モーセは主に言った、『ああ主よ、わたしは以前にも、またあなたが、しもべに語られてから後も、言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです』。主は彼に言われた、『だれが人に口を授けたのか。話せず、聞えず、また、見え、見えなくする者はだれか。主なるわたしではないか。それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう』。」(出エジプト 4:10～12)

主は、モーセが自分には話す能力がないと嘆願したときに、燃えているしばから彼にその不信仰を譴責された。〔出エジプト 4:11, 12 参照〕。主のみ言葉がエレミヤにのぞんだとき、彼は「ああ、主なる神よ、わたしはただ若者にすぎず、どのように語ってよいかわかりません」と言った。しかし主は彼に言われた、「あなたはただ若者にすぎないと言ってはならない。だれにでも、すべてわたしがつかわす人へ行き、あなたに命じることをみな語らなければならない。彼らを恐れてはならない、わたしがあなたと共にいて、あなたを救うからである」(エレミヤ 1:6～8)。

モーセとエレミヤにメッセージをお与えになった同じ神は、この時代におけるご自分の証人にご自分の言葉をお与えになる。「(なぜなら) 語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中において語る父の霊である」と、キリストは宣言なさる(マタイ 10:20)。主のこの言葉はすべての時代に事実であることを証明し、自分の確信を初めから終りまで堅く保つすべての者に、時の終りまで事実であることを証明する。もつとも力強い証は、ひとたび聖徒に伝えられた信仰を擁護するときに与えられる。聖霊は真理と義のために証をするよう召される者のそば近くにおられる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1898年5月24日)

神の命令がモーセに与えられたとき、彼は、自信がなく、口が重く、おくびょうであった。彼は、イスラエルびとに対する神の代弁者としての、自分の不適任さを感じて圧倒された。しかし、ひとたびその任務を受け入れるや、主にまったく信頼を寄せ、全心をこめて働きを始めた。彼はこの偉大な働きのために、彼の知力のかぎりを尽くして働いた。神は、モーセのこのような従順な態度を祝福されたので、彼は雄弁になり、希望に満ち、落ちつきを取りもどして、人間にゆだねられた最大の働きにふさわしい人物となった。これこそ神にまったく信頼し、主のご命令に完全に従う者の品性を神が強化されるよい実例である。(人類のあけぼの上巻 291)

わたしたちの信仰の交わり

「どうか、あなたの信仰の交わりが強められて、わたしたちの間でキリストのためになされているすべての良いことが、知られて来るようになってほしい。」(ピレモン 6)

信仰は神の賜物であるが、それを働かせる力はあなたのものである。一言の真剣な信仰の表明が信仰を強める。しかし、疑いを語る一言一言が疑いを固め、あなたの魂の周りに不信の暗い影を寄せ集める一助となる。そうであれば、サタンがほのめかす疑いをいだいたり、表現したりすることによって、あなたの魂をサタンの誘惑に対して開いてはならない。信仰と勇気を語りなさい。光に押し進みなさい。そうすれば義の太陽からの光線が、雲と闇を追いはらい、やすらかな平安が魂に行き渡る。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1885 年 3 月 5 日)

祈祷会に忠実に出席するだけでなく、なるべく週に一度は賛美集会を持つべきである。ここで、神のいつくしみ深さやさまざまな憐れみを想うべきである。わたしたちが悲しみや疑いや不信を語るのと同じくらい自由にわたしたちの受けた憐れみに対する感謝を表現するならば、わたしたちは他の人々の心に失望や暗闇を投げかける代わりに、喜びをもたらすことができる。いつも前途に失望を見ては、試練や困難を語り、つぶやいたり、文句を言ったりする人たちは、キリストが自分たちのために払われた無限の犠牲を熟考すべきである。そのとき、彼らは自分たちのすべての祝福を十字架の光のうちに評価することができる。わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるお方、わたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみを担われたイエスを眺めている間は、わたしたちは感謝と賛美の理由を認め、わたしたちの思想と願いは、キリストのご意志の下に屈服するようになる。……

わたしたちは十字架の下に集まらなければならない。キリスト、しかも十字架につけられたキリストが熟考と、会話と、またわたしたちのもっとも喜ばしい感激の主題とならなければならない。わたしたちは自分たちの思いの中で神から受けたすべてのものをいつも新鮮に保ち、このお方の偉大な愛へのわたしたちの感謝と、わたしたちのために十字架に釘づけられたみ手の内に喜んですべてをおゆだねする心を表現する目的で、これらの特別な取りきめをはかるべきである。わたしたちはここで、シオンの歌を歌うために、カナンの言葉を語ることを学ぶべきである。(教会への証 4 巻 461, 462)

11月16日

歌によって交わる

「御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。」(エペソ 5:18, 19)

心に触れ、純潔な感謝と賛美のうちに唇から流れ出る天の音楽を造り出すのは、神の感化力である。(この日を神と共に 169)

歌の賜物を持っている人々が必要とされている。歌は霊的な真理を心に印象づけるのに最も効果的な方法の一つである。聖なる歌のみ言葉によってしばしば悔い改めと信仰の泉が開かれる。……

青年男女のかたがた、神があなたがたを召される働きに取りかかりなさい。キリストはあなたが自分の能力を良い目的のために用いるよう教えてくださる。あなたが聖霊の活気づける感化力を受け、他の人々を教えようと努力するとき、あなたの思いは新たにされ、聞き手に新しい、不思議に美しい言葉を提供することができる。み言葉を祈り、歌い、語りなさい。(ビュー・アンド・ハルド 1912 年 6 月 6 日)

真理にしっかり定着している人は、近隣へ出て行き、集会を開いて、すべての人に心のこもった招待をしなさい。これらの集会に、美しい賛美、熱心な祈り、神の御言の朗読があるようにしなさい。そして考えを表現し、それを覆う言葉は普通の人々がすぐに理解できるようなものにしなさい。(同上 1914 年 11 月 19 日)

働き人の小さいグループが主の伝道者として出て行くようにしなさい。そして、キリストが初期の弟子たちになすべきことを委ねられたとおりにさせなさい。わたしたちの町のさまざまな所へ、二人ずつ出て行き、主の警告のメッセージを伝えなさい。人々に創造の物語を聞かせ、いかにして主がご自分の働きを閉じるときに、安息日に休み、祝福されたか、そしてそれをご自分のみわぎの記念として、とっておかれたかを語りなさい。

教会員は老いも若きも、世界にこの最後のメッセージを宣布するために出て行くための教育を受けなければならない。もし彼らが謙遜のうちに出かけるなら、神の御使が彼らと共に行き、彼らに祈りのうちに声を上げることや、いかに賛美のうちに声を出すか、いかにこの時代のための福音のメッセージを宣布するかを教えてくれる。わたしたちには、一瞬たりとも無駄にする時間はない。(上を見上げて 91)

魅力的な雄弁を避ける

「兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。」(コリント第一 2:1～5)

コリントで福音を宣布するにあたって、使徒は、アテネでの彼の働きを特徴づけていた行動方針とは異なった方針をとった。アテネで、彼は聴衆の気質にあったやり方を採用していた。そして彼の時間の多くは、自然宗教の討論にあてられ、論理には論理、科学には科学をもって応戦した。しかし彼がそこでキリスト教の説明に注ぎ込んだ時間と労力をふり返り、自分の教え方に大した実りがなかったことに気づいたとき、彼は今後違った働きの計画で行おうと決心した。彼はできるかぎり巧妙な議論や理論の討議を避け、キリストによる救いの教理を罪人に強く勧めようと決心した。(パウロの生涯からのスケッチ 102)

使徒は、雄弁術で耳を魅了したり、哲学的な討論で思いを引きつけるために労して、心には触れないままにしたりはしなかった。彼がキリストの十字架を宣べ伝えたのは、念入りの言葉の雄弁さではなく、神の恵みと力によってであった。そして彼の言葉は人々を動かした。(同上 105)

パウロは雄弁家であった。改心する前に、彼はしばしばほとぼる雄弁で聴衆に感銘を与えようとした。しかし今は、彼はこれをすべて放棄した。感覚を楽しませ、想像力を満足させはするが、しかし日常の生活には関係のないような、詩的表現や空想的描写にふけることなく、パウロはぎわめて重要な真理を、人の心に刻みつけるために、単純な言葉を用いるよう努めた。(患難から栄光へ上巻 272)

思いきって大胆に語り

「こうした望みをいただいているので、わたしたちは思いきって大胆に語り」(コリント第二 3:12)

真理を空想的に描写するなら、人を感動させることができるかもしれない。しかし、往々にして、このようにして示された真理は、信者を強めて人生の戦いに備えさせるに必要な糧を与えるものではない。即刻の必要や現実の試みに苦闘している人々には、キリスト教の基本原則にある健全で实际的な教えを与えなければならぬ。(患難から栄光へ上巻 272)

神と共に歩む人々は、悪行をそのとおりの名で呼ぶ用意ができています。牧師によって、教師によって、医事伝道者によって、あるいは主の奉仕におけるほかの働き人によって行われたとしても、罪は罪である。……思い切って大胆に語ることが要求される。(原稿別冊 16 巻 1)

真理は神からのものである。種々様々の形態を装うあらゆる欺瞞はサタンからのものである。であるから、どんな方法においても、真理のまっすぐな道から離れるものは、悪魔の力に自分を売り渡しているのである。キリストの教えを受けた者は「実を結ばないやみのわざに加わらない」(エペソ 5:11)。彼らは生活におけると同様、言葉も単純、正直、誠実である。(国と指導者上巻 219)

働きのために、魂に触れるのにより働きのできる賢明で献身した人を選ぶべきである。女性もまた、真理をはっきりと知的にまっすぐな方法で提示できる人を選ぶべきである。わたしたちの中で、心のうちになされるべき深い恵みの働きの必要性を認める働き人を必要としている。そしてそのような人々は、熱心な伝道努力に携わるよう、励まされるべきである。長い間、このような種類の働き人たちがもっと必要とされてきた。わたしたちはもっと熱心に、「主よ、わたしたちが互いに助けることができるように助けてください」と祈らなければならない。自己はキリストと共に隠されなければならない。そして、神の聖霊によってバプテスマを受けなければならない。そのとき、言葉にも、精神にも、わたしたちの働きの方法にも、神の御霊が導いておられるという事実が表れるようになる。

わたしたちは、わたしたちの信仰の理由を理解し、真理を伝えることにおいてなされるべき働きを自覚し、また神のみ言葉に対するだれかの信頼を弱めたり、信仰の仲間の間に存在すべき友情を破壊するような言葉は一言でも語ることを拒む男女を、働き人として必要としている。(伝道 472)

絶えず賛美する言葉

「わたしの舌はひねもすあなたの義と、あなたの誉とを語るでしょう。」(詩篇 35:28)

わたしが何年前か、コロラドにいたとき、美術館を訪れた。そこで、人々のグループがうっとりしたように絵の前に立ち、人間の芸術家をほめたたえていた。夕方、わたしが町を歩いているとき、わたしは日没の栄光を見た。輝かしい光線が雪をかぶった山々の上を照らしていた。そしてそれはあたかも天の門が開かれ、その栄光がそこを通って流れ込んでいるかのようにであった。人々は絶えず街路を行き来していたが、だれ一人としてその光景を見ていなかった。わたしの連れとわたしは、うっとりしてそれを眺めていた。わたしはその中に天の美しさを認めることができた。わたしは、わたしがその中にある美しさを理解できるように、天の栄光が開かれた門から輝き出ているのがわかった。しかし、群衆はその光景を見ていなかった。これが神の受けておられる取り扱いである。

どれほどの人が、自分の子供たちを庭園に連れて出るとき、彼らに美しい花々を指し示しながら、「これはあなたに対する神の愛の表現なのですよ」と言うであろうか。これは彼らの思いを導いて、自然を通して、自然の神へと引き上げる。これはあなたの子供たちにとって、彼らの注意を奪って神を忘れさせるような墮落的な性質のあらゆる見世物や娯楽に連れていくより、はるかに益となるのではないだろうか。(バグル・エー 1894 年 11 月 19 日)

男女がもっと十分に、天の全能者が人の代わりに死なれることによって払われた大いなる犠牲の大きさを理解できるとき、そのときこそ、救いの計画は大いなるものとされ、カルバリーを想うときにクリスチャンの心の中に、優しく、神聖な生き生きとした感情を呼び覚ます。神と小羊への賛美が彼らの心のうちに、またその唇にあるであろう。誇りと自己尊重は、カルバリーの光景を記憶の中に生き生きと保っている心の中には、繁茂することができない。この世界は、人の贖いの大きな代価、すなわち神のいとしいひとり子の尊い血を感謝する人々にとって、ほとんど価値のないものに見える。この世のすべての富は、ひとりの滅びつつある魂を贖うのに十分な価値がない。十字架にかかれ、罪深い人間の罪のために苦しんでおられたときに、このお方が失われた世界に対して感じておられた愛を、だれが測り得ようか。この愛は測りしれず、無限であった。(教会への証 2 卷 212)

11月20日

正しい思想は正しい言葉をなす

「わが口は知恵を語り、わが心は知識を思う。」(詩篇 49:3)

この人生における成功か失敗かは、思想が訓練される方法に大いにかかっている。もし神が思想を導かれるときに、それらが支配されるなら、より大きな献身へと導くような主題について思うようになる。思想が正しいければ、言葉も正しいものとなる。(ビュー・アソド・ヘルド 1886 年 4 月 6 日)

自己統治の習慣を身につけなさい。それによってあなたの思想がキリストの御霊の支配下に入れられるためである。あなたの思想が正しい水路を通して流れるように訓練され、正しい言葉を語り、あなたの情欲と食欲が理性の支配下にあつて、舌が軽薄さと邪悪な非難とあら探しに対してくつわをはめられているために、あなたに必要なのは、神の恵みである。(教会への証 4 巻 235)

すべての人は、大いに自分自身の言葉の影響下にいる。彼らは自分の言葉で表現された気持ちを実行に移す。このように舌の統治は、個人の宗教に密接に結びついているのである。多くの人は自分自身の言葉によって悪い道が正しいと信じるように導かれる。思想が言葉に表現され、今度は言葉が思想に影響を及ぼし、そして別の言葉が生み出される。感化力はその人自身だけでなく、他の人にも感じられる。主なる神だけが、思慮の足りない言葉の有害な結果を取り消すことができる。しばしば、一度表現された意見や決定は、それがまったく悪い道へ導くものであつても、実行される。自分が間違っていたことを認めるのはあまりにも屈辱的であるために、鉄のような意志は変わることがない。性急に語られ、強い感情を発散させる言葉は、キリストがそのために死なれた魂を害したり、傷つけたり、痛めたりして邪悪な結果を生み出す。性急に語られる言葉によって、サタンは喜び、神は辱められ、多くの魂が損なわれるのである。

優しく話さない。親切で引き上げるような言葉を語りなさい。なぜなら、これがクリスチャンの木が結ぶ実だからである。いっさいのとげとげしさに打ち勝ちなさい。無分別な言葉は、それらを口にする人々の魂にも、聞く人々の魂にも、多くの害をなす。永遠だけが、これらの言葉を出した人々が、どれほど大いに自分たちの心をへりくだらせ、神に告白をする必要があつたかを明らかにするのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1905 年 3 月 1 日)

改心した舌

「あなたのすべての戒めは正しいので、わが舌はみ言葉を歌います。」(詩篇 119:172)

わたしたちが神のみ力について語るとき、絶えずわたしたちに示されている愛に感謝していること、わたしたちに与えられている憐れみと恩寵をありがたく思っていること、そしてわたしたちの魂全体が神の栄光の実現を認識していることを示すのである。

賛美と感謝がないことは、神の敵を喜ばせる。神のみ名を汚して口にする人々と、このお方を心と声をもって賛美する人々の間の境界線は、明確であり、はっきりしている。(レビュー・アンド・ハラルド 1900 年 11 月 20 日)

キリストは天の宮を民の罪から清めておられる。そして、わたしたちは地上で、魂の宮をその道徳的な汚れから清め、このお方と調和して働かなければならない。もしわたしたちがこのように働くならば、わたしたちは神の御霊の芳しい感化力が、自分たちの生活の中に働きかけて下さるのを見出す。恵みと平安と強さが、争いと弱さにとって代わり、そして失望と暗がりについて語る代わりに、神の光と愛と喜びを語るのである。(同上 1890 年 2 月 11 日)

あなたが自分のバプテスマの時に水の墓から起きあがるとき、あなたは死んでいることを告白し、あなたの生涯が変わって一キリストと共に神のうちに隠されている一ことを宣言したのである。あなたは罪に対して死んでいること、そして自分の先天的後天的悪への傾向から清められていることを宣言した。バプテスマの式に入ることによって、あなたは神のみ前に罪に対して死んだままであることを自ら誓った。あなたの口は聖化された口のままであり、あなたの舌は改心した舌のままであるべきである。あなたは神のいつくしみ深さについて語り、このお方の聖なるみ名をほめたたえるべきである。(パイグル・コメント [E.G. 何什コメント] 7 巻 908)

イエスの憐れみ、いつくしみ深さ、愛について語りなさい。なぜなら、「わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」からである(使徒行伝 4:20)。あなたの顔を天に向けていなさい。天の魅力的なものを眺めなさい。そうすれば、あなたは真理において「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝える」ことができる(ペテロ第一 2:9)。イエスの唇から与えられたすべての尊い約束をもって、わたしたちは自分たちの感謝を行動にあらわそう。神の戒めの光のうちに自分たちの義務をよく考えよう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 12 月 7 日)

証会

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。」(マラキ 3:16)

安息日遵守者によって、自分たちの集会を維持し、それを興味深いものとするために大いなる関心が払われるべきである。これまで関心が足りなかったが、律法遵守者たちの集会においてもっとエネルギーが表される必要が大いにある。すべての人が主のために何か語ることがあるべきである。そしてそうすることによって彼らが祝福されるのである。覚えの書は、集会をやめることをしないで、しばしば互いに語る人々のために記されている。

残りの民は、小羊の血と彼らのあかしの言葉によって勝利すべきである。ある人々は、小羊の血だけで勝利するものと思って、自分たちで特別の努力をしていない。神は、恵みのうちにわたしたちに言葉の力をお与えになったことを、わたしは見た。神は、わたしたちに舌と言葉をお与えになった。わたしたちは、その用い方について神に責任を問われるのである。わたしたちは、わたしたちの口をもって神に栄光を帰し、真理と神の限らない憐れみをほめたたえ、小羊の血によるわたしたちのあかしの言葉によって勝利しなければならない。

わたしたちは、集会に来て黙っているのではない。集会に来て神に誉れと栄光を帰し、そのみ力について語る人々だけが、主に覚えられる。このような人々の上に神の祝福がくだり、彼らは新しい力を受ける。すべての者が、わたしに示されたとおりになすべきことをするならば、尊い時間は失われることもなく、長い祈りや勧めに対する譴責もいらなくなる。なぜなら、すべての時間が、短い要領を得たあかしと祈りに用いられるからである。……まず第一に、わたしたちは、必要を感じて、それから必要なものそのものを神に求めて、……神は、それをわたしたちにお与えになることを信じなければならない。

何も新しいことがなく、もし言うとするば、同じ話を繰り返さなければならないという理由で、集会の時に黙っている人々がある。こういっことは、誇りが原因であって、神と天使たちは、聖徒たちの証を目撃し、それが毎週くり返されることでも彼らにとって、大きな喜びと栄光であることを、わたしは見た。主は、単純と謙遜を愛される。(クリスチャン経験とエレン・G・ホワイトの幻 (1854) 34 ~ 36)

神について語る

「主に感謝し、そのみ名を呼び、そのみわざをまろもろの民の中に知らせよ。主にむかって歌え、主をほめ歌え。そのまろもろのくすしきみわざを語れ。」(歴代志上 16:8, 9)

わたしたちは世に悪が満ちていることを知っているが、それについてばかり考えたり語ったりするのであろうか。わたしたちはそこかしこに欠点や悪を探すのであろうか。わたしたちは自分の兄弟たちの品性を批判的に眺めるのであろうか。ああ、神のいつくしみ深きことを考えようではないか!このお方の力について語り、このお方の愛について歌おう。わたしたちの魂を忠実な創造主である神に委ね、心配したり、いらいらしたりするのをやめようではないか。神はわたしたちがこの生涯の事柄を超越して生きるのを助け、わたしたちに考え、語るための良い事柄を豊かに与えて下さる。キリストのみ前に出よう。……わたしたちの清めのための備えはできている。罪と汚れのための泉は開かれた。信仰のうちに神の恵みを求めなさい。それが無駄になることはない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1889年5月28日)

ああ、わたしたちの舌が解かれて〔神の〕いつくしみ深さを語り、このお方のみ力を述べるように!もしあなたがイエスの引き寄せる力にこたえるならば、あなたはキリストの麗しさと恵みの力を通してだれかに感化を及ぼさずにはいない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892年2月22日)

自分自身に関することについて話題にするのが、サタンの計画である。サタンは人間にサタンの力や人の子らを通してなす彼の働きについて語らせるのを喜ぶ。しかし、そのような会話にふけることによって、暗くいやな不愉快な思いになる。わたしたちは心に少しも日光をもたらさない言葉を通してサタンのための伝達手段となることもできる。しかし、このようにはならないように決心しようではないか。サタンが暗い不愉快な思いを伝えるための水路とはならないことを決心しよう。わたしたちが人々に語る言葉や、わたしたちのささげる祈りにおいて、わたしたちの言葉が死から死への香りではなく、命から命へ至るものとなるようにしよう。神はわたしたちが霊的な命を持っているという間違いのような証拠を示すことを望まれる。(ロマ・リング・メッセージ 537)

感じのよい思いやりのある人になりなさい。あなたの顔が主の喜びを反映するようにしなさい。このお方のいつくしみ深さについて語り、このお方の力について述べなさい。そのときあなたの光がますますはつきりと輝くようになる。あなたの試練や失望を越えて、純粋で健全な宗教生活の表れが明らかにされるようになる。(原稿リ-ス 8 巻 333)

純粹な言葉の必須条件

「あなたのさとしの道をわたしにわきまえさせてください。わたしはあなたのくすしきみわぎを深く思います（語るでしょう）。」（詩篇 119:27）

神のみ言葉にこれほどわずかしき注意が払われていないのであれば、キリスト教を公言する青年たちの間に天をおもう思いがこれ以上見られなくても不思議ではない。神聖な勧告には注意を払わず、訓告には従っていない。過去の罪を避け、墮落の一つ一つのしみが品性から清められるための恵みと天来の知恵を求めている。……

もしわたしたちの青年の思いが、より熟年者の思いと同様に、集会の時に正しい方向にむけられているならば、彼らの会話は高められた主題に関するものとなる。思いが純粹で、思想が神の真理によって高められているならば、言葉も「銀の彫り物に金のりんごをはめたよう」な同じ性質のものとなる（箴言 25:11）。しかし、現在の理解と、現在の習慣と、クリスチャンでありながら到達するのに満足している現在の低い標準では、会話は安っぽく、無益なものとなる。それは「地から出て土に属し」ており、真理の香りでもなければ、天の香りでもなく、世俗の教養ある人々の標準にすら達しない。キリストと天が熟考の主題となり、会話がその事実の証拠を示すとき、言葉は恵みによって味つけられ、語っている人は、神の教師の学校で教育を受けたことを示すのである。（ビュー・アズ・ハルト 1888年8月21日）

〔詩篇 119:27 引用〕。わたしたちは主の律法をこの光のうちに見ることができる。キリストのくびきは嘆かわしいものだという印象を与える代わりに、わたしたちは「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」という言葉の真実性を証明することができる（マタイ 11:30）。

サタンは自分自身に合うように物事を調整する。彼は、宗教生活は強要の人生であり、痛々しい犠牲の人生であると宣言してきた。わたしたちは、キリストをありのままに一絶えず、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と言われる、同情深い贖い主として表すことによって、これを阻止するために奮闘しないのであろうか（28 節）。世にあなたが神の戒めを守るのは、この地上においてでさえ、そのようにすることがあなたの幸福であるがゆえだということを示しなさい。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898年4月28日）

賛美を語る喜び

「主よ、あなたのすべてのみわざはあなたに感謝し、あなたの聖徒はあなたをほめまつるでしょう。彼らはみ国の栄光を語り、あなたのみ力を宣べ」（詩篇 145:10, 11）

もし兄弟姉妹たちが、彼らの到達すべきところに達しているならば、彼らの罪のためにカルバリーの十字架にかかられたイエスの誉れのために、言うことがなくて困ることはない。われわれの罪とがのための犠牲の死をとげるために、愛するひとり子をお与えになった神の大いなるあわれみと、罪深い人間に救いの道を開いて、ゆるしと生命を与えるために、イエスが受けられた苦難と苦悩を、彼らがもつと自覚することができたならば、彼らは、もつと心からイエスを高め賛美することであろう。彼らは、黙っておられず、感謝の心にあふれて、神の栄光と神の力について語るのである。そして、そうすることによって、神の祝福が彼らの上に宿るのである。たとえ同じ話が繰り返されたとしても、神に栄光が帰せられるのである。天使は、「聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神よ」と昼も夜も叫び続けている人々を、わたしに見せた。「これは繰り返しの連続であるが、神はそれによって栄光を受けられる」と天使は言った。われわれも同じ話を何度もするかも知れないが、それは、神に誉れを帰し、われわれが神の恵みとあわれみを忘れていないことを示しているのである。

わたしは、名目的教会が倒れて、その中には、冷淡さと死がゆきわたっているのを見た。もし彼らが神の言葉に従ったならば、み言葉は、彼らを謙遜にしたことであろう。しかし、彼らは主の働きを見下している。彼らは、集まるときに、神の恵みについての同じ単純な話を繰り返すことは、あまりにも恥ずかしいことであるとする。そして、彼らは、何か新しい大きなものを発見して、人々に喜ばれる耳ざわりのよい言葉を言おうと研究するので、神の霊は、彼らを去られる。われわれが、聖書の地味な道に従うならば、神の霊の感動を受けるのである。もしわれわれが、真理の控え目な通路に従い、全的に神によりたのむならば、すべては楽しい調和を保って、悪天使に影響される危険はないであろう。魂が、神の霊の導きから離れて、自分自身の力で動くときに、天使たちは、彼らを守護することを止め、彼らは、サタンの攻撃を受けるままに、放置されるのである。（初代文集 217～219）

11月26日

王に演説する

「人々に注意なさい。彼らはあなたがたを衆議所に引き渡し、会堂でむち打つであろう。またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人に対してあかしをするためである。彼らがあなたがたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の霊である。」(マタイ 10:17～20)

パウロの時代において、パウロは福音のために投獄されたのであったが、そのために福音は、ローマ市の王侯や貴族に伝えられた。この場合も同様で、皇帝が説教壇から説教することを禁じたものが、王宮から宣言された。召使いでさえ聞くべきものでないと言われたものを、帝国の領主や諸侯たちが、驚嘆して聞いたのである。王侯、貴人が聴衆で、諸侯が説教者で、説教は、神の尊い真理についてであった。「使徒時代以来、これほどの大きな業や堂々たる告白が行なわれたことはなかった」とある著者は言っている。(各時代の斗争闘上巻 259)

キリストの僕たちは、自分たちの信仰のために法廷に呼び出されるときに、述べるための決まった言葉を準備すべきではない。彼らの準備は、日々、自分たちの心に神のみ言葉の尊い真理を貯蔵し、キリストの教えを心の糧とし、祈りを通して自分たちの信仰を強めることによってなされるべきである。そうすれば、法廷に呼び出されたときに、聖霊がまさに聞きに来た人々の心に刻まれる真理を彼らの記憶に思い起こさせてくれる。

神は聖書の勤勉な探求によって得た知識を、まさに必要とされている時に記憶にひらめかせてくださる。しかし、もし彼らが真理の宝石で自分たちの思いを満たすのを怠っているならば、もし彼らが自らキリストの言葉と親しくなっていないならば、もし彼らが試練の時にこのお方の恵みの力を味わったことがないならば、そのとき彼らは聖霊が自分たちの記憶に、このお方のみ言葉を思い起こさせてくれることを期待することはできない。彼らは日々二心のない愛情をもって神に仕え、それから、このお方に信頼すべきである。(安息日学校の働きへの証 106, 107)

子供たちの証人

「見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。
……〔子供たち〕は門で敵と物言うとき恥じることはない。」(詩篇 127:3, 5)

多くの場所で、聖職者たちの力が再臨の真理の宣布を阻止するために働かされると、主は小さい子供たちを通してメッセージを送ることを喜ばれた。彼らは未成年者であったため、国家の法律は彼らを拘束することができず、彼らは自由に妨げられることなく語ることが許された。こうしてまもなく訪れる裁きの警告が人々に伝えられた。これは約9カ月続いた。その後、子供たちに及んだ感化力は、当局によって、病気だと宣言された。そして、彼らのうち幾人かは、病院へ連れて行かれた。しかし、彼らの口は止められなかった。なぜなら、彼らは神が彼らを証人としてお用いになることを選ばれている限り、宣布したからである。……

ある目撃者が、これらの子供たちを通して成し遂げられた働きについて述べて、次のように言った、「人々はこぞってこれらの子供の説教者たちがいるところへ出かけて行った。子供たちのほとんどは、貧しい日雇い農夫であった。小さい女の子が、わたしの住んでいたところからほんの数マイルのところで説教を始めた。そしてすばらしい運動の知らせについて騒がれていたので、わたしは妻と一緒に自分自身で見聞きするために出かけた。わたしたちが小屋についたとき、人でいっぱいになっていた。およそ6歳か8歳の子供は、彼らの中で動き回っていて、彼らが彼女に質問をすると、普段と同じように子供らしく答えていた。人々が続々と集まり、ついに家は大勢の人に取りまかれた。最後の人が到着したとき、彼女の様子は、大胆さにおいても動きにおいてもガラッと変わった。それははつきりと彼女が、生来の彼女自身の賜物によってではなく、目に見えない力によって動かされていることを示唆していた。彼女が話し始めたとき、声も変わっていた。彼女は言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである」(黙示録 14:7)。彼女は、飲酒、窃盗、姦淫、のろいの言葉、中傷などの罪を譴責し、また教会に行く人々に、神の言葉を聞いて、それに自分たちの生活を合わせるかわりに、世俗の仕事のことを考えながら、教会に出席することを譴責した。彼女の声と言葉は印象的であった。多くの人々は涙を流し、ため息をついていた。彼らは、悔い改めの時が与えられていること、しかし、それを延ばすことなく、ただちにしなければならないことを告げられた。(ヒストリカル・スケッチ 205, 206)

11月28日

語るとおりに生きる

「子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。」(ヨハネ第一 3:18)

わたしたちは、会衆の中でばかりではなく、家庭生活において、神に賛美と感謝をささげる必要がある。このお方の嗣業の聲が、主のみ働きを物語るのが聞かれるようにしよう。このお方のいつくしみ深さについて語り、このお方のみ力について述べよう。あなたが天におられなければ、わたしには他にだれがいいよう。そして地上においてわたしが望むのは、あなた以外に一人もいない。わたしたちは、賛美の歌がもっと多くなり、そしてつぶやきや文句はもっと少なくなる必要がある。(原稿ワース 20 巻 269)

神は心の奉仕を要求なさる。形式や口先の奉仕は、神へ魂を改心させる働きには全く関係ないものである。心から出てくる奉仕でなければ、やかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。心は、聖霊に協力するエネルギーで湧き立たなければならない。(レビュー・アンド・ヘルド 1892 年 9 月 6 日)

人間の知恵や、さまざまな国の言語に精通していることは伝道の働きの助けとなる。人々の習慣や地理や出来事の時についての理解は、実用的な知識である。なぜなら、それは聖書の比喩を明らかにし、キリストの教訓の力をもたらすのに助けとなるからである。しかし、これらの事柄をどうしても知る必要があるわけではない。旅人は、贖われた人が歩むために敷かれた道を見出すことができる。聖書を誤解して滅びる人はだれも言い訳できない。聖書には、すべての命に関わる原則が宣言されており、すべての本分が明らかにされており、すべての義務が明確にされている。(同上 1891 年 12 月 1 日)

神のご要求はそのみ言葉の中にわたしたちの前に明らかに示されている。そしてまた偉大な尊い約束もわたしたちの前にある。決定しなければならない問題は、「わたしたちは、神の子となることができるように、喜んで自ら世から分離するであろうか」ということである。これは、一瞬、あるいは一日の働きではない。それは家庭の祭壇で頭を垂れて、そこで口先の礼拝をお捧げすることによって成し遂げられるものではない。それは単に祈祷会の礼拝に参加することによって成し遂げることはできない。それは一生の働きである。神への愛が生きた原則となり、すべての行動、すべての言葉、そしてすべての思想の根底になくてはならない。(同上 1888 年 10 月 23 日)

話すのは安価なもので、大した代価はいらない。行い、すなわち実が木の性質を決定するのである。あなたはどの実を結んできたであろうか。(教会への証 2 巻 685)

偽りがない

「なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。……彼らの口には偽りがな〔か〕 ……った」(黙示録 14:1, 5)

神にとって重要なのは、巧みな語り手でもなければ鋭い知性でもない。効果的な感化力を持つのは、真剣な目的であり、深い敬神であり、真理の愛であり、神を畏れることである。偽りのない唇から出る信仰と謙遜な信頼に満ちた心からの証は、ども舌によってなされたとしても、神には金のように尊いものとみなされる。その一方で、大きなタラントを与えられてはいるが、真実さや、堅固な目的、純潔、無私に欠けている人の賢い言葉や雄弁な美辞麗句はやかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。彼は気のきいたことを言い、楽しませるような逸話を語り、感情を刺激することができるかもしれないが、イエスの霊はそこにはない。これらのことはみな、聖化されていない心を喜ばせるかもしれないが、神はご自分のみに言葉や精神や誠実さや献身を量るはかりを持っておられて、このお方はそれがまったく虚無よりも軽いと宣言なさるのである。(パウル・コメンリ [E . G . 叔トコメント] 6 巻 1091)

キリストに学んだ者は「実を結ばないやみのわざに加わらない」(エペソ 5:11)。彼らは「口には偽りがな」い聖なる者たちとの交わりのために準備をしているので(黙示録 14:5) その生活と同じように言葉も、単純で率直で真実なのである。(ビュー・アッド・ワルド 1908 年 12 月 3 日)

もしあなたがあいまいなことを言ったなら、もしあなたが偽りの証言をしたなら、もしあなたの兄弟を誤って判断し、誤り伝えたなら、もし彼の言葉を偽って伝え、彼をあざ笑ったなら、もしあなたがどのような方法にしる彼の感化力を傷つけたなら、まっすぐにあなたが彼について会話をした人々、この働きにおいてあなたと一緒にあった人々のところへ行き、あなたの不当な虚偽の言葉を取り消しなさい。あなたが自分の兄弟になした悪を告白しなさい。なぜなら、あなたが自分の言葉のなした悪を正すために自分の力でなしうることをすべてするまでは、記録の書の中であなたの罪があなたを責めるからである。神があなたに要求なさることをすべてなしたとき、あなたの名のところに許しが書き込まれる。(同上 1889 年 5 月 28 日)

11月30日

純粋な言葉

「主は言われる、それゆえ、あなたがたは、わたしが立って、証言する日を待て。わたしの決意は諸国民をよせ集め、もろもろの国を集めて、わが憤り、わが激しい怒りをことごとくその上に注ぐことであって、全地は、ねたむわたしの怒りの火に焼き滅ぼされるからである。その時わたしはもろもろの民に清きくちびる(純粋な言葉)を与え、すべて彼らに主の名を呼ばせ、心をつにして主に仕えさせる。」(ゼパニヤ 3:8, 9)

わたしたちの言葉は欺瞞のないものであるべきである。わたしたちの唇には、偽りが見出されてはならない。わたしたちの心に不純が、わたしたちの互いの言葉や態度に不親切が許されてはならない。ここで、天の言葉と調和しているカナンの言葉を学びなさい。(原稿川-ス12 巻 83)

わたしたちは地上の言葉をみがき、あまりにも人の会話になじんで、カナンの言葉がわたしたちにとって新しくなじみのないものとなってはならない。わたしたちはキリストの学校で学ぶべきである。(ユース・インストラクター 1894 年 6 月 28 日)

天の学校で王家の人々によって話される言葉であるカナンの言葉で語るよう、自らを教育しなさい。すべての愚かしいおしゃべりや冗談やあらゆる利己的な娯楽は棄て去ることを断固として決心しなさい。信仰によって神のみ約束をつかみ、昇天のために準備をしているあいだにも、この地上でクリスチャンになることを決心しなさい。(レビュー・アンド・ヘラルド 1903 年 8 月 27 日)

神のみことばが、そのみことばによってきよめられた人によって語られるとき、それはいのちを与える力を持っていて、聞く人をひきつけ、みことばこそ生きた現実であることを確信させる。人が真理を愛してこれを受け入れるとき、それはその人の信念のある態度と声の調子にあらわれる。彼は他の人々がキリストを知ることによって彼とまじわることができるように、いのちのみことばについて自分が見、聞き、手でさわったところを知らせる。祭壇の上から取った燃えている炭にふれた唇から出る彼のあかしは、信ずる者の心にとって真理であり、品性にきよめが行なわれる。また他人に光を与えようとつとめる者は自分も祝福される。(各時代の希望上巻 162, 163)

賜物の目的

「〔主は〕ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて」（エペソ 4:11, 12）

神は教会に種々の賜物を置かれた。これらはそれぞれの場所ですべて尊く、すべての者は聖徒を完全にすることにおいて役割を果たすべきである。

これは神の秩序であり、人は成功したいのであれば、このお方の規則と取り決めに従って労しなければならない。神は個人的な感情や利己心の気配がない、快く謙遜な心でなされるその人々の努力だけをお受け入れになる。（『レクティド・メッセ』 3 卷 25）

最初に、神は、ご自分のかたちにかたどって人を創造された。神は、人間にすぐれた性質をお授けになった。人間の心は、よく均衡がとれていて、そのすべての能力には調和があった。しかし、墮落とその結果によって、これらの賜物はゆがめられてしまった。罪は、人間の中の神のかたちを、ほとんど消し去った。これを回復するために、救いの計画がたてられ、人間に猶予の期間が与えられた。最初に創造されたときの完全な状態に人間を回復することが、人生の大目的であってその他のすべてのものの根底に流れる目的である。……

人間が持っている心と魂とからだの種々の能力は、すべて神から授かったものであるから、それらを活用して最高にすぐれたものにしなければならない。しかし、これは、利己的で排他的修練ではない。なぜなら、われわれが、似ようとしている神の品性は、慈悲と愛に富んだものだからである。創造主が、われわれにお授けになったすべての能力とすべての性質は、神の栄光と同胞の向上のために用いなければならない。そして、このように活用することが、最も清く、最も気高く、最も幸福な活動である。（『人類のあけぼの下巻』 258）

忠実な働き人はみな、聖徒たちが完全になるために奉仕する。主の僕の労によって益を受けているすべての者は、自分の能力に従って、魂の救いのための働きにおいて彼と一致すべきである。これがすべての真の信者、牧師、民の働きである。彼らは、つねにその大目的を視野に入れ、各々教会内で自分のしかるべき立場をしめるよう努めながら、かつすべての者が秩序と調和と愛をもって互いに働くべきである。

キリストの宗教には利己的な狭量なものは何もない。（『レビュー・アンド・ヘラルド』 1908 年 11 月 12 日）

12月2日

教会員一人びとりのための場所

「〔主は〕ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、……奉仕のわざをさせ、」（エペソ 4:11,12）

主がわたしに賜った光により、わたしは今日このお方のみ事業は、聖書の真理の生きた代表者を大いに必要としていることを知っている。按手を受けた牧師だけがその働きをする能力があるのではない。神は牧師だけではなく、医者、看護婦、文書伝道者、聖書の働き人、そしてその他、現代の真理の知識がある様々なタラントをもった献身した平信徒たちに、警告を受けていないもろもろの都市の必要を考えるようにと招いておられる。今、1人しかいない個人的な伝道の働きに、100人が積極的に携わっているべきである。時は急速に過ぎ去っている。サタンの方が道をふさいでしまう前に、なされるべき働きが多くある。すべての代理者が、現在の機会を賢明に活かすために、活動していなければならない。（ビュー・アンド・ヘラルド 1910年4月7日）

主は牧師と同様に平信徒にも、理性と知性を彼らに賜物として与え、ご自分の働きのための資質を彼らの分として与えてこられた。そして、これらのタラントを用いることについて、各人に責任がある。神はご自分の働きにすべての者の真心からの献身を要求しておられる。……

自分の資質と才能はつましくても、主人であるお方の御霊を吹き込まれ、要求されるなら命そのものすら犠牲にする用意のできている魂が教会の中にいる。これらの人々は給料を受ける立場におかれることはできないが、彼らの限られた方法で主人であるお方のために働くことができるように教育を受けることができる。そのような人々が用いられるよう配慮するのは牧師の義務である。なぜなら、主は彼らがなすべき講壇の働きを持っておられるが、これが彼の働きのすべてではないからである。教会に個人的な働きの必要があるとき、牧師の最も重要な働きは、自分が世話をしている魂を、申し開きをする責任のあるべき魂として助けることである。福音の牧師は教育者でなければならないが、それは彼が労する人々に、他の人々のために労するという彼らの責任を印象づけることができるためである。彼は教会員一人びとりが神の働きの中で自分の場所を見つけるのを、祈りをもって愛情を込めて助けなければならない。こうしてすでに収穫の準備ができている畑に働き人がいることができるためである。（ホーム・ミッショナリー 1892年10月1日）

キリストの体を建てる

「〔主は〕ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。……それは、……キリストのからだを建てさせ、」(エペソ 4:11,12)

献身した信者が集まるとき、彼らの会話は他人の不完全さやつぶやきや不平の香りとはならない。愛、すなわち愛情と、完全のきずなが、彼らを取り囲む。神と同胞への愛は、自然に自分の兄弟への愛情、思いやり、そして尊敬の言葉のうちに流れ出る。神の平安が彼らの心を支配し、彼らの言葉はむなしく中身の無い軽々しいものではなく、互いを慰め、向上させるものである。(教会への証 1 巻 509)

イエス・キリストの宗教は進歩を意味する。それは絶えず、もっと聖なるもっと高い標準へと向かうことを意味する。心が救い主のご品性の麗しさに触れたクリスチャンは、キリストの学校で学ぶことを実践すべきである。わたしたちは、このお方が日々わたしたちにお教えになることを速やかに学ぶキリストの学校の利発な生徒でなければならない。

わたしたちは、神が与えておられるタラントをこのお方の名誉と栄光のために用いるべきである。主はわたしたちに理性と知性を与えてくださっているので、わたしたちがそれらを正しい方向で用いることを期待なさる。このようにしてわたしたちはそれらを増し加える。なぜなら人の力だけよりももっと高い力が、神の良しとされることを思い、行うためにわたしたちの内でも働いてくれるからである。わたしたちの持っている能力はわたしたち自身が造り出したのではない。使徒は次のように言っている。「いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。あなたの持っているもので、もらっていないものがあるか。もしもらっているなら、なぜもらっていないもののように誇るのか」(コリント第一 4:7)。わたしたちのタラントは神に属しているので、恥じるところのない働き人となって、喜びにあふれた奉仕のうちにそれらをこのお方にお返しすべきである。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 13 日)

あなたのみ言葉の感化力が他の人々を救っているかどうか、それらの効果を研究しなさい。決して話すために話してはならない。そうではなく、聞く人々の徳を高めるために語りなさい。(原稿リクス 18 巻 371)

神が書かれたものは何であつてもすべての者を教えるためである。聖なる人々が書くように靈感を与える必要があるとこのお方が思われたのは、あなたを啓発するためである。真理のみ言葉を実践する場合だけ、あなたは安全であり、あなたは世に神の光を担う者となる。(特別な証シリーズ A7 号 14)

12月4日

信仰の一致

「〔主は〕ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。……わたしたちすべての者が、……信仰の一致……に到達し」（エペソ 4:11, 13）

なぜわたしたちの多くが非常に弱く役に立たないのであろうか。それは、わたしたちが自己を見て、キリストとこのお方のご品性を研究する代わりに、自分自身の気質を研究し、どのようにしたら自分自身のために、自分の個性のために、自分の特質のために場所を作ることができるかを思い巡らせるからである。

もし自分たちがアメリカ人とかヨーロッパ人、ドイツ人とかフランス人、スエーデン人、デンマーク人とかノルウェー人であることを忘れて自分たちがキリストから学ぼうとするなら、調和して共に働くことのできるはずの兄弟たちは、これらの他の国々の人々と混じると自分自身の国や国家の特質が何か失われて、何か別のものが取って代わると感じているようである。

兄弟がた、これをすべて脇へ置こう。わたしたちには自分自身や自分の嗜好や自分の好みに自分の思いをとどめておく権利はない。わたしたちは、自分を同労者から引き離す自分固有の独自性、個性、個人的特徴を維持しようと努力すべきではない。わたしたちには維持すべき品性があるが、それはキリストのご品性である。キリストのご品性を持つことによって、わたしたちは共に神のみ働きを進めることができる。わたしたちの内におられるキリストは兄弟たちの内におられるキリストに会い、聖霊が、世に対してわたしたちが神の子であることを証する心と行動の一致を与えて下さる。キリストがわたしたちを助けて、自己に死に、新たに生まれることができるように。それにより、キリストがわたしたちのうちに生き、生きた活動的な原則、すなわち、わたしたちを聖なるものに保つ力となるように。

一致のために熱心に努力しなさい。そのために祈り、そのために働きなさい。それは霊的健康、思想の向上、品性の気高さ、天の思いをもたらし、あなたが利己心と悪い推測に打ち勝つことを可能にし、あなたを愛し、あなたのためにご自身を与えて下さったお方によって勝ち得てあまりある者になることができるようにさせる。自己を十字架につけなさい。人を自分よりすぐれた者としなさい。このようにしてあなたはキリストと一つになるに至る。全宇宙の前で、教会と世の前で、あなたは自分が神のむすこ娘である間違えようのない証拠を担う。神はあなたが示した模範で栄光をお受けになる。（教会への証 9 巻 187, 188）

キリストを反映して完全に至る

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。……わたしたちすべての者が、神の子を……知る知識……に到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ 4:11,13)

カルバリーの十字架を見なさい。それは天父の無限の愛、計り知れない憐れみの永続的な堅いみ約束である。ああ、すべての者が悔い改め、自分たちの最初のわざをするように。教会がこれをなすとき、彼らは神を最高に愛し、隣人を自分自身のように愛することができる。エフライムはユダをねたまず、ユダはエフライムを悩ますことはない。そのとき分裂は癒され、争いの不快な響きがイスラエルの境界の中で聞こえることはない。神の民に喜んで与えられる恵みによって、全ての者は、キリストと御父が一つであられるように、ご自分の弟子たちが一つとなるようにとのキリストの祈りに応えようと努める。平安、愛、憐れみ、慈愛が魂に宿る原則となる。キリストの愛がそれぞれの舌の主題となり、真の商人が仰せになった「あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった」ということはなくなる(黙示録 2:4)。神の民はキリストのうちに宿るようになり、イエスの愛が表され、一つの御霊がすべての心を活気づけ、すべてをキリストのすがたに再生し、新たにして、すべての心を一様に形づくる。すべての者は真のぶどうの木の子きた枝として、生ける頭であられるキリストにつながる。キリストがすべての心に宿り、導き、慰め、聖化させて、世にイエスに従う者の一致を示し、こうして天の信任状が残りの教会に与えられている証拠を担うのである。キリストの教会が一つになることによって、神がそのひとり子を世に送られたことが証明される。

神の民が御霊の一致のうちに一つになるとき、ユダヤ国民の罪であった一切のパリサイ主義、自己義はことごとく心から追い出される。キリストの型がこのお方の体の個々の肢体にはめられ、キリストの民はこのお方が新しいぶどう酒を注ぐことのできる新しい袋となることができる。そして、新しいぶどう酒がその袋を破ることはない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 3 月 20 日)

12月6日

多くのタラント、一つの真理

「霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務は種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである。」(コリント第一 12:4～6)

主の取り決めすべてにおいて、種々の賜物を男女にお与えになるこのお方のご計画はどうなるわしいものはない。このお方の教会は、いろいろな種類の木々や植物や花々で飾られた庭園である。このお方は、ヒソプが杉の大きさを身につけることや、またオリーブが堂々としたやしの木の高さに到達することを期待してはおられない。多くの人々は、限られた宗教的また知的訓練しか受けたことがないが、神はもし彼らがへりくだってご自分に信頼して働くのであれば、この種類の人々のなすべき働きを持っておられる。

神にはさまざまな働く方法があり、このお方は異なる賜物をお委ねになったさまざまな働き人を持っておられる。ある働き人はたくみな話し手であるかもしれない。また、他の者はたくみな執筆者、また他の者は誠実で真剣、熱烈な祈りの賜物を持っているかもしれない。他の者は賛美の賜物、他の者は神の御言をはっきりと説明する特別な技能があるかもしれない。そしてそれぞれの賜物は神のための力となるべきである。なぜならこのお方は働き人と共に働かれるからである。神はある者に知恵の言葉を与え、他の者に知識をお与えになるが、すべての者は同じ頭のもとで働くべきである。賜物の多様性は活動の多様性へと導くが、「すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである」(コリント第一 12:6)。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1910 年 3 月 15 日)

神は民を世から神の戒めとイエスの信仰という、永遠の真理の高められた土台に導いておられる。このお方はご自分の民を訓練し、整えておられる。彼らはある者はあることを信じ、他の者は正反対の信仰と見解を持って、体と関係なく独立して動くような、不和の状態にはならない。このお方が教会に置いておられる種々の賜物と統治権によって、彼らはみな信仰の一致へと達する。……

神は民を導き出し、神の戒めとイエスの証という真理の偉大な一つの土台の上に彼らを定着させようとしておられる。このお方はご自分の民に、明白でつながりをもった聖書の真理というまっすぐな鎖を与えてこられた。この真理の起源は天にあり、隠れた宝のように探られてきた。(教会への証 3 卷 446, 447)

行動で一致

「からだ一つであっても肢体は多くあり、また、からだのすべての肢体が多くあっても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である。」(コリント第一 12:12)

一人びとを計り、物事がどのように進むべきかを述べるために、自分でものさしを携える働きを引き受けている者は、今この責任から放免されるがよい。

カルバリーの十字架が掲げられるべきである。そして、人々を十字架に引き寄せ、ますます信者の輪の円周を拡張していくことに従事しているすべての人は、救いの力であられるキリストを持つ。神の栄光のための熱心さが表されるべきである。わたしたちは苦々しさの根をことごとく抜き去るべきであり、聖霊の導きを通して、今にも滅びるばかりの魂の救いのために、聖化された熱心さを持つべきであることを、すべての者が理解しよう。(アドラント・エノン・グリーナー 1902 年 1 月 8 日)

もしわたしたちの働き人がキリストの御霊によってバプテスマを受けていたら、彼らは人々を働き人のために訓練するのに、今までより 50 倍も多くのことを成し遂げたことであろう。一人や二人、あるいは多くの人々がテストに耐えられなかったとしても、わたしたちは努力をやめるべきではない。なぜなら、それはキリストのためにこの働きがなされなければならないからである。救い主は失望された。人間の心の強情のために、このお方の努力が成功をもって報いられなかったからである。しかし、このお方は働き続けられたのだから、わたしたちもそうでなければならない。もしわたしたちが忠実と忍耐と愛をもって労してきたならば、いま働き人が 1 人しかいないところに 100 人いたことであろう。生かされなかった機会が、妬みや神に対する反逆の記録をもつ同じ書物の中で、わたしたちの名のところに記されている。自分たちの外国伝道において、わたしたちは何年も失ってしまった。2, 3 名の熱心な働き人はいたが、彼らの精力は、大部分が真理を公言する人々を信仰の破船から守るために費やされてしまった。支え続けるためにこれほど助けを要したこれらの人々が、自分の同胞の救いのために労してきたならば、彼らは自分自身の試練を忘れ、他の人々を助けるのに強くなっていたことであろう。もしできるかぎりすべての人々にわたしたちを助けるように呼びかけるならば、今までなしてきたよりも、はなはだ多くのことを成し遂げることができる。……

聖書朗読会を持つ計画は、天来の考えである。この方面の伝道の働きに携わることのできる男女が多くいる。(レビュー・アンド・ヘルド 1885 年 12 月 15 日)

12月8日

一つの御霊を飲む

「なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。……もしからだ全体が目だとすれば、どこで聞くのか。もし、からだ全体が耳だとすれば、どこでかくのか。そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである。」(コリント第一 12:13, 17, 18)

日々、魂はキリストの宗教を必要としている。このお方の御霊から深く飲む人々は、自分自身のために野望をいだかない。彼らは自分たちが神の領土を越えていくことはできないことを悟る。なぜなら、神はいたるところを統治しておられるからである。(教会への証 8 巻 140, 141)

神は、ご自分の体の様々な肢体に、様々な賜物を委ねてこられた。このお方はご自分の王国の進展を促進するのに最善なタラントや機会を彼らに与えてこられた。自分たちの様々な働き分野において、彼らには一人の頭なるお方がおられる。同じ御霊が彼らを通して働くのである。(レビュー・アンド・ハルト 1911 年 2 月 16 日)

もし神の奉仕に献身しているならば、はるかにもっと多くの信徒たちが、この時代のための真理を知らない群衆に憐れみの警告のメッセージを与えるはずである。わたしたちの周りではいたるところで、魂が罪の内に滅んでいつている。毎日、主人のためになすべきことがある。

一人びとりのクリスチャンは、良いわざのうちに、自分の光が輝き出るようにすべきである。彼の言葉はわたしたちの主イエス・キリストを大いなるものとすべきである。何かをする前に大きな機会を待つ代わりに、彼は自分の最も手近にある働きをすべきである。こうして彼は自分のタラントを増し加え、より広範囲の奉仕のために準備ができる。どこにしようと、熱心に言葉と行いに真理の救いの力を示すべき自分の伝道地がある。彼は他の人々が何をするか見ようと待つてはならない。彼には自分自身の個性があり、すべての言葉と行為について、自分がその僕であるキリストに対して責任がある。(パシフィック・エオン・レコーダー 1903 年 11 月 5 日)

キリストに従うすべての者は、……失われた者の救いのための主の苦しみに入るのである。彼らは、キリストの苦難にあずかると同時に、やがてあらわれる栄光にもあずかるのである。主と共に悲しみの杯を飲み、主のみわざにおいて一つになる彼らは、主の喜びにも共にあずかるのである。(祝福の山 15)

一つの組織体の支部

「もし、すべてのものが一つの肢体なら、どこにからだがあるのか。ところが実際、肢体は多くあるが、からだは一つなのである。」(コリント第一 12:19, 20)

世は、目の前で神の民の心をクリスチャンの愛のうちに結ぶ奇跡が行われるのを見る必要がある。(健康への勧告 514, 515)

福音伝道は、医事伝道の働きに永続性と安定性を持たせるために必要である。そして福音伝道は、福音の実際の働きを示すために、医事伝道の働きを必要としている。いずれの部分があっても、働きは完全なものとならない。

救い主がまもなく来られるというメッセージが世界のいたるところに伝えられるべきであり、すべての分野において厳粛な尊厳がそれを特徴づけるべきである。働きのなされるべき大きなぶどう畑がある。そして賢明な農夫はすべての分野で実りがあるように働くのである。……もし重責を担っている人々が、真理の原則に忠実に堅く立つならば、主は彼らを支え、維持して下さる。

医事伝道と福音伝道の間に存在すべき一致は、イザヤ 58 章にはっきりと提示されている。ここに提示されている働きに携わる人々のための知恵と祝福がある。この章は明白であり、その中に神の御旨を行おうと望む人をだれでも啓発するのに十分なものがある。それは苦しんでいる人類に奉仕し、それと同時に滅びつつある世界の前に真理の光をもたらす神のみ手のうちの器となるための機会を豊かに提示している。もし第三天使のメッセージの働きが正しい方針で進められるなら、福音伝道が低い立場におかれたり、貧しい人や病人がなおざりにされたりすることはない。ご自分のみ言葉の中で、神はこれらの二つの分野の働きを結合させた。だれもそれらを切り離してはならない。(福音宣伝者 392)

わたしたちは主の軍隊に召集されたのであるから、敵の側ではなく、キリストの側に立って戦うべきである。そこで、わたしたちは言葉において、行動において、霊において、交わりにおいて完全に一つに結ばれることができる。本当にクリスチャンである人々は、まことのぶどうの木の花であり、ぶどうと同じ実を結ぶのである。彼らは調和のうちに、クリスチャン教会の中で行動する。(教会への証 9 巻 188)

12月10日

体の中に分裂がない

「目は手にむかって、『おまえはいらない』とは言えず、また頭は足にむかって、『おまえはいらない』とも言えない。そうではなく、むしろ、からだのうちで他よりも弱く見える肢体が、かえって必要なものであり、からだのうちで、他よりも見劣りがすると思えるところに、ものを着せていっそう見よくする。麗しくない部分はいっそう麗しくするが、美しい部分はそうする必要がない。神は劣っている部分をいっそう見よくして、からだに調和をお与えになったのである。それは、からだの中に分裂がなく、それぞれの肢体が互にいたわり合うためなのである。」(コリント第一 12:21～25)

主はご自分が様々な肢体にお与えになったすべての賜物を、ご自分の教会が尊ぶようにと望んでおられる。わたしたちは自分たちの働いているのと方針と同じ方針で働かないかぎり、だれも奉仕できないと考え、自分自身に思いが固定することがないように気をつけなければならない。

働き人は決して次のように言うてはならない。「わたしはこんな人と一緒に働きたいくはない。なぜなら、彼はわたしと同じように物事を見ないからである。わたしは自分の言ったことにはすべて同意し、わたしのすべての考えに従う人と働きたい」。このように結合することを拒む人に、これまで提示されてこなかった示すべき真理があるかもしれないのである。働き人が主によって備えられた助けを受け入れることを拒むがゆえに、働きは偏ったものにされている。

働きは神のお与えになったすべての賜物が持ち込まれないかぎり、損なわれる。み働きの進展は、働き人たちが働きの進展に必要なのは自分たちの賜物だけだと考えるがゆえに、何回も妨げられてきた。もしこれほど多くの働き人たちが、立場と励ましが与えられているべきであった働き人たちと協力することを拒むことによって、働きの発展を制限していなかったならば、主がご自分の民のためにできたはずのことを、主はなさなかった。自己満足のうちに、人々は神が特別な働きをお与えになった人々を無視して、脇へ押しのけてきた。……

だれ一人として、他人の賜物をさげすんではならない。だれ一人として自分だけが神の宝庫から真理を持ち出すことができると思っではならない。(パシフィック・ユニオン・レコーダー 1904 年 12 月 29 日)

一致した全体

「もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。」(コリント第一 12:26, 27)

わたしたちの教会は、不一致の状態でいながら、神の祝福を楽しむことができると考えないようにしよう。わたしたちはこの世でキリストの代表者でなければならない。このお方は誉れと徳へと召しておられる。キリストが御父を表されたように、わたしたちも世にキリストを表すべきである。なぜならこのお方を表すことによって、わたしたちは、助けが必要とされるところではどこでも助けるために至る所におられる御父を表すからである。

わたしたちには主人であるお方のために果たすべき大いなる働きがある。イエスがわたしたちのためにあれほどまでの犠牲を払い、わたしたちの救いのために命を与えてくださった後で、わたしたちは、自分の一連の行動によって、このお方がわたしたちを恥ずかしくお思いになるようなことをするのであろうか。(上を見上げて 172)

教会員一人びとりは、人類同胞の兄弟関係とキリストにある兄弟関係に関わるすべてのことに関心を抱かなければならない。(教会への証 7 巻 292)

互いへの愛は互いを称賛しへつらうことによって表すのではなく、真の忠誠によって表すべきである。キリストの愛はわたしたちが魂を見守るようにと導き、もしだれかが危険に陥っているのを見るなら、彼が不機嫌になる可能性があっても、彼にはつきりと親切に、そう言う。キリストの宗教は衝動に支配されるべきではない。わたしたちは多く祈り、神に全的に頼る必要がある。わたしたちは、真理をしっかりと、かつあらゆる義と真理のうちにつかむ必要がある。しかし、わたしたちが真理を忠実に語る一方で、それを愛をもって語らなければならない。(サィズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 2 月 7 日)

一致のために熱心に努力しなさい。そのために祈り、そのために働きなさい。それは霊的健康、思想の向上、気高さ、天の思いをもたらす。あなたは利己心と悪い憶測に打ち勝ち、あなたを愛し、あなたのためにご自身を与えてくださったお方によって勝ち得てあまりがある者となる。一致のために熱心に努力しなさい。(聖書訓練学校 1903 年 5 月 1 日)

教会組織に共に集っている者は、自分たちの光が世に輝き出るために、今彼らがしている百倍ものことができる。彼らは世から出て分離し、汚れたものに触れてはならず、上にあるものに愛情を向けるべきである。彼らは自分を喜ばせるためではなく、自分の贖いのために死んでくださったお方の模範に従うために生きるべきである。(ホーム・ミッショナリー 1892 年 10 月 1 日)

善を行うための賜物を熱望する

「だから、あなたがたも、霊の賜物を熱心に求めている以上は、教会の徳を高めるために、それを豊かにいただくように励むがよい。」(コリント第一 14:12)

なすべき大いなる働きがある。世は舌という賜物によらず、あるいは奇跡のわざによらず、十字架につけられたキリストを説くことによって改心するのである。聖霊に働いていただかなければならない。神はわたしたちの手のうちに手段をおいて下さったのであるから、わたしたちはこのお方の意志と方法を行うために、それらを一つ一つ用いなければならない。わたしたちは信者として今の時代のための真理を前進させるにあたって、役割を果たす特権を与えられている。新しい地域に真理を紹介するために、神がわたしたちに与えてくださった方法と手段をできるかぎり用いるべきである。(特別な証シリーズ A, No10, 13)

ほろびゆく魂のために、話すことが多く、愛を公言することが多い。しかし、話すのは安価なことである。必要とされているのは、真剣なクリスチャンの熱心さ—何かを行うことによって表される熱心さ—である。すべての者が今自分自身のために働かなければならない。そして彼らが心のうちにイエスを宿しているなら、彼らはこのお方のことを他の人々に告白する。キリストを所有している魂にこのお方を告白させないようすることは、ナイヤガラの水が滝にあふれ落ちるのを止めるよりももっと不可能である。(教会への証 2 巻 233)

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別な働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくし、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。

神とそのみわざに対する熱意が弟子たちを動かし、偉大な力を発揮して福音をあかしさせた。われわれも同じ情熱を心に燃やし、あがないの愛の物語を、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの物語を語る決意をすべきではないだろうか。(患難から栄光へ下巻 308)

もっとすぐれた方法

「更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。」(コリント第一 12:31 ~ 13:1, 2)

審判の時には、すべての才能の用途がくわしく調べられる。われわれは、天から貸し与えられた資本をどのように用いたであろうか。主は、来られるときに、ご自分のものを利子とともにお受けになるであろうか。われわれは、肉体的、精神的、知的に託された力を活用して、神に栄光を帰し、世界に祝福をもたらしたであろうか。われわれは、時間、筆、声、金銭、影響力などを、どのように用いたであろうか。貧しい人、苦しんでいる人、孤児や寡婦を助けて、キリストのために何をしてきたであろうか。神はわれわれを、神のみ言葉の保管者となさった。そしてわれわれは、救いに至る知識を人々に伝えるために、われわれに与えられた光と真理を、どのようにしてきたであろうか。キリストを信じるとただ表明するだけではなんの価値もない。行為にあらわされた愛だけが、本物とみなされる。神の目の前で、行為を価値あるものにするのは、愛だけである。愛によって行なわれたことは、人間がどんなに低く評価しようとも、神に受け入れられ、報われるのである。(各時代の斗争闘下巻 220, 221)

キリストがわたしたちのためにしてくださったこと、このお方が罪人のために苦しまれたことを考えて、魂のための純粋な私心のない愛から、わたしたちは彼らの善のために自分の楽しみや都合を犠牲にして、このお方の模範を真似るべきである。……愛、わたしたちの同胞への真の愛は神への愛を表す。わたしたちは気高い公言をすることはできるが、この愛がなければ無に等しい。(教会への証 2 巻 115, 116)

あなたは真理を愛し、その前進を切望している。あなたは試みられ、ためされるために様々な状況に置かれるであろう。もしあなたが訓練に服従するなら、真のクリスチャン品性を発達させることができる。あなたの命に関わる利益がかかっているのである。あなたが最も必要なのは、真の神聖と自己犠牲の精神である。わたしたちは真理の知識を得、その最も隠れた神秘を読むことができるかもしれないが、そしてそのために自分の体を焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、わたしたちはやかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。(同上 4 巻 133)

12月14日

敵の戦術の上をいく

「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく」(エペソ 4:14)

教会の大敵は、不一致と不和という結果になるものを神の民の間に持ち込もうと決心している。分裂や分割は義の実ではない。それらは悪の実である。わたしたちの前進を大いに妨げるのは、信者が互いに真の親交を持つことを妨げる利己心である。(レ・ユー・アソ・ヘルト 1903 年 5 月 12 日)

〔サタンは〕自己を捧げていない安息日遵守者の思いを支配し、彼らを導いて、互いに嫉妬や、あら探しをさせ、批判的にする。心を分裂させ、神の僕たちの感化力と力と働きが献身していない安息日遵守者の間にとどめられ、彼らの貴重な時間が、未信者に真理を宣布することに費やされるべきときに、ささいな相違を解決するのに忙しくさせるのが、彼の特別な働きである。(教会への証 1 巻 261)

もしキリストの豊かな恵みによって、キリストの愛が教会員の心の中にあるなら、兄弟間に一致、調和がある。わたしたちは、わずかといえども自分たちをこの調和の状態にさせずにおく傾向のある暗示には心の戸を閉ざさなければならぬ。わたしたちは利己心にふけることによって魂の邪魔をし、その力を損なってはならない。利己心は罪であり、キリストの御霊を悲しんで去らせる。わたしたちが不親切な思いを持ち続け、兄弟に対して疑いをいだくなら、神の光と愛の水路から自分を切り離す。……真理を守る者は、神と互いに対して忠実であることを見出される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 4 月 13 日)

わたしは、何かの変化―彼らを支配するための止むに止まれぬ力―が起こるのを待っている神の民を示された。しかし彼らは失望する。なぜなら彼らは間違っているからである。彼らは行動しなければならない。すなわち、自ら働きに取りかかり、本当に自分自身を知ることができるよう神に真剣に叫び求めなければならない。わたしたちの前を通り過ぎていく光景は、わたしたちを目覚めさせ、耳を傾けるすべての者の心に真理を訴えさせるのに十分な重大さを持っている。地の収穫はほとんど準備が整っている。(教会への証 1 巻 261)

愛によって徳を高められた一団

「愛にあつて真理を語り、〔わたしたちは〕あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。」(エペソ 4:15, 16)

ああ、働き人は、陶器師の手のうちで形づくられる粘土のように、どれほど自分たちを変え、こねてかたどるイエスの御霊を必要としていることであろうか！彼らがこの精神を持つとき、彼らの間に不一致の精神はない。何でも自分の考えに従って、自分のやり方でやりたいという狭い考えを持つ者は一人もいなくなる。自分の標準に見合わない働き人の兄弟と自分との間に、不調和の感覚がなくなる。主はご自分の子らのだれも他の者の影法師になることを望まれない。かえって偉大な型（かた）であられるお方の生涯と品性に倣うことによって高尚にされ、各自が、精錬され、聖化され、気高くされた単純な自分自身となることを、このお方は望んでおられる。(レビュー・アソ・ヘルド 1886 年 4 月 13 日)

生きた教会は働く教会である。聖書の真理の尊い光は、燃えている明かりのように、教会員一人ひとりから輝き出るべきである。神はご自分を信じる人々をご自分の器としてお用いになり、彼らを通して、このお方は命のパンがなく氣を失いかけている魂に奉仕をなさる。神の祭壇からの生ける炭が触れた唇から注がれる希望と励ましの言葉は、疲れ失望している者を回復し元気づける。

時は尊い。魂の運命はきわどい瀬戸際にある。無限の価をもって、救いの道が備えられてきた。キリストの大いなる犠牲は無に帰するのであろうか。地はサタンの代理人によって完全に支配されるのであろうか。魂の救いは神の教会の献身と活動にかかっている。主は、ご自分を信じるすべての者がご自分との共労者になるようにと召しておられる。彼らの命が続く限り、自分の働きが終わったと感じるべきではない。「すべてが終わった」とキリストが仰せになるその時が来るまで、魂の救いのためのこのお方の働きは減少するのではなく、範囲も重要性も大きくなるべきである。(パンフィク・エオン・レコダ― 1903 年 11 月 5 日)

12月16日

ただ自分を喜ばせるのではなく

「わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さになうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。わたしたちひとりびとりは、隣り人の徳を高めるために、その益を図って彼らを喜ばすべきである。」(ローマ 15:1, 2)

主がご自分の民のうちに見ようと意図しておられる力は、悲しいほど教会の中で欠けている。わたしたちはこのことに対してどのように申し開きをすることができるであろうか。キリストの御名を公言する者は本当に改心しているのであろうか。彼らは自分の理性、知識、愛情、思考力を神にお捧げしているのであろうか。主人であるお方の奉仕に財産と能力というタラントを使用しているのであろうか。それとも彼らは自分の世的な企てを打ち立てるために、思いと体の全エネルギーを捧げているのであろうか。イエスはご自分の弟子になりたい者に「それからイエスは弟子たちに言われた『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう』」と仰せになる(マタイ 16:24, 25)。神の子である者は、今後自分自身をキリストの十字架の一部、すなわち世を救うために下げられた鎖の輪、キリストの憐れみのご計画においてこのお方と一つであって、失われた者を探し出し救うためにこのお方と共に出て行く者とみなすべきである。彼は、つねに自分が神に自らを捧げ、品性において世にキリストを表すべきであることを自覚しているべきである。キリストの生涯に表された克己、自己犠牲、同情、愛が、神のための働き人の生涯に再現されるべきである。神との共労者である者は聖霊の助けを求めて祈りのうちに格闘する必要がある。彼らは誤っている者への最も優しい配慮を表し、キリストの外にいる者に最も熱心な訴えをし、神の栄光のために多くの実を結んで、キリストの弟子として知られる。(ホーム・ミッシヨナリー 1892 年 10 月 1 日)

クリスチャンの熱心さは、話すだけで消耗してしまうのではなく、活力と有用性を感じ、活動する。しかしなお、クリスチャンの熱心さは、見せるために活動するのではない。謙遜が一つ一つの努力を特徴づけ、一つ一つの働きに見られる。

.....

願わくは、主があなたがたの目に見えるようにと開き、その心を感じるようにし、クリスチャンの熱心をあらわすようにしてくださるように！

ああ、魂の価値を感じる者がどれほど少ないことであろう。魂をキリストの知識に連れてくるために喜んで犠牲を払う者がなんと少ないことであろうか。(教会への証 2 巻 233)

麗しく楽しい住まい

「見よ、兄弟が和合して共におけるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」(詩篇 133:1)

キリストが、ご自分の試練の前に弟子たちのために捧げた最後の祈りは、彼らのご自分にあつて一つとなることができるようというものであつた。サタンはこの一つの状態にさせまいと決心している。なぜなら、それは世を天に和解させるために神がご自分の御子をお与えになったことを証できる中で、もっとも力強い証だからである。しかしキリストが祈られたこの一致が、教会に授けよう切望しておられる拡張と力をこのお方が授けることができる前に、神の民の間に存在しなければならない。

一致は、教会の中で保存の要素として認識すべきである。教会の中で一致している人々は、神のみ言葉に従い、お互いの信仰を強めるための努力において一致するという、神との厳粛な契約に入つたのである。彼らは、たとえ世界中に散らされても、神にあつて一つでなければならない。これが彼らに関わる神のご目的であり、救い主のみ心はこの目的を果たしているご自分の民に注がれている。しかし彼らがキリストの方法を取るために自分たちの方法を快くあきらめないかぎり、キリストと、またお互い一つになることはできない。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1903年5月12日)

兄弟がた、あなたがたが神の御前に心をへりくだらせるとき、それぞれの教会の中にパリサイ主義の危険、自己義のパリサイ人がした「神よ、わたしはほかの人たちのような人間でないことを感謝します」という考えや祈りの危険があるのを見る。ああ、心の眠っている土地を耕し、真理の種が深く根をはり、芽が出て、神の栄光のために多くの実を結ぶことができるとよいのに！兄弟がた、あなたが兄弟の一人を責めたくるとき、「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」と仰せになったイエスの言葉をよく考えなさい(ヨハネ 8:7)。あなたの罪は考慮すると特別の罪ではないかもしれないが、イエスのみ言葉は、あなたが罪からまったく離れているなら、初めに石を投げるができるという意味である。イエスがこの言葉を告発者に語られたとき、彼らの罪悪感が目覚め、最年長者から始まって最も若い者まで一人ずつ出て行つた。(原稿リフス 11 卷 267)

完全に一つとなる

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにさせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。……わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全に一つとなるためであり」(ヨハネ 17:21, 23)

〔ヨハネ 17 章の祈りの中で、イエス・キリストは〕キリストとその弟子たちに存在するようになる一致と結合について語っておられる。この結合、この一つの状態において、キリストはわたしたちのうちに栄光をお受けになる。ここで、わたしたちのうちどれほどの人がこの一致を守ろうと努力することを軽いことだと見なしているか、考えて欲しいと思う。なぜか、それはキリストのうちに、またキリストを通しての信徒の一致こそ、教会の大きな力だからである！一つになること、すなわちキリストを信じる信仰を通して神の民と共に存在する信仰と一致による愛、それは力である。

わたしたちが互いに調和を持つことができるようにと祈られたキリストの祈りに応えるために、わたしたちの努力は、いかに真剣で、断固とした、決定的なものであるべきであろうか。キリストはそれを完全なものとするために死なれたのである。なぜなら、わたしたちがこの調和と一致のために絶えず労していないかぎり、キリストが御父と一つであられるように、わたしたちがご自分と一つであるようにとの祈りに応えるのに必ず失敗するからである。(説教と講和 1 巻 194)

個々の教会員として、あなたは神を最高に愛し、あなたの隣人をあなた自身のように愛するとき、一致するのに非常な努力をする必要はない。なぜなら自然の結果としてキリストのうちに一つとなるからである。耳はもはやあなたの隣人を傷つけるうわさを聞こうとはせず、だれも自分の隣人に対する非難を取り上げない。教会員は愛と一致を大事にし、一つの大きな家族となる。そのときわたしたちは世に対して神の信任状を担うようになり、それは神が御子を世にお送りになったことを証するのである。キリストは「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」と仰せになった(ヨハネ 13:35)。キリストの神聖は神の子らの一致のうちに認められる。……

わたしたちのすべての過ちをこれほど許し、これほど忍耐し、憐れみと愛に満ちておられるキリストは、わたしたちの頑固な批判とあら捜しを何とお思いになるであろうか。過ちに陥っている兄弟への愛は、あなたの厳しいすべての批判よりも彼らを改革するのにはるかに大きな効果をもたらすのである。(原稿リ-ス 11 巻 266-268)

一つの思いで、平和に過ごし

「いつも喜びなさい。全き者となりなさい。互に励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和に過ごしなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいて下さるであろう。」(コリント第二 13:11)

わたしは、重大な罪を犯した者、しかも今なお自分たちの罪を神がご覧になるようには見ていない者を、兄弟姉妹として親しく交わってきたし、今もそうしている。しかし、主がこの人々を忍んでおられるとすれば、わたしもそうすべきではないだろうか。このお方はなおも、ご自分の御霊をもって、罪がパウロにはなはだ罪深いものとしてあらわされたように、彼らにもあらわされるよう、彼らの心を印象づけて下さるのである。

わたしたちは自分自身の心がほとんど分からず、神の憐れみの必要をほとんど感じない。これが、イエスがわたしたちに表してくださり、またわたしたちが互いに表すべき優しい思いやりを、ほとんど抱かない理由である。わたしたちは、自分の兄弟たちが、自分自身と同じように弱く誤りがちな人間であることを覚えていべきである。ある兄弟が、油断して誘惑に打ち負かされ、彼のいつものふるまいとは逆に、何かの過ちを犯したとしよう。彼に対してどのような方針を取るべきであろうか。わたしたちは、聖書から偉大な善なる働きをさせるために神が用いてこられた人々が、重大な罪を犯したことを知る。主はこのような人々を譴責しないままにしておくことも、ご自分の僕を捨てることもなさらない。彼らが悔い改めるとき、このお方は恵み深くも彼らをお許しになる。……貧しく弱い人間に、自分自身が神と兄弟たちからの憐れみと寛容がどれほどたくさん必要であるかを考えさせなさい。彼らに自分たちがどれほど他人を裁き、非難しているかに気づかせなさい。……

一人ひとり、自分を支持したりあるいは反対する団体の意見によらず、だれかの判断によるのでもなく、神の御目からご覧になった彼の真の品性によって、最終的に自分自身で立つか、さもなければ倒れることになる。教会は警告し、勧告し、忠告することはできるが、だれをも正しい道を取るようにと強要することはできない。神のみ言葉を無視し続ける者はだれでも自分の重荷を負い、自分自身のために神に答え、自分の取った進路の結果に苦しまなければならない。

主は、わたしたちが従順によって、教会の中で一致と調和を保つことができるために、ご自分のみ言葉の内にはっきりとした間違えようのない教訓をわたしたちに与えておられる。兄弟姉妹がた、あなたがたはこの靈感を受けた命令に注意を払っているであろうか。あなたは聖書を読む者であり、またみ言葉を行う者であろうか。あなたはご自分に従う者たちが一つになるようにとのキリストの祈りを成就するために奮闘しているであろうか。(教会への証 5 巻 246 ～ 248)

12月20日

今日のためのエパフラスの重荷

「あなたがたのうちのひとり、キリスト・イエスの僕エパフラスから、よろしく。彼はいつも、祈のうちであなたがたを覚え、あなたがたが全き人となり、神の御旨をことごとく確信して立つようと、熱心に祈っている。わたしは、彼があなたがたのため、またラオデキヤとヒエラポリスの人々のために、ひじょうに心労していることを、証言する。」(コロサイ 4:12, 13)

パウロは、コロサイの兄弟たちに次のように手紙を書いている。「あなたがたはこの福音を、わたしたちと同じ僕である、愛するエパフラスから学んだのであった。彼はあなたがたのためのキリストの忠実な奉仕者であって、あなたがたが御霊によつていただいている愛を、わたしたちに知らせてくれたのである。〔利口さや能力や説教者の美辞麗句といった清められていない愛ではなく、神の御霊から生まれた愛であり、神の僕は、その言葉と品性においてそれを表していた。〕」(コロサイ 1:7, 8) (教会への証 4 巻 316〔 〕にある注解は初版より)

多くのすばらしい働きがラオデキヤ教会になされた。彼らには「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」という熱心な勧告が与えられた。しかし、教会は神の使命者によつて始められた働きの後に従わなかった。彼らは聞いたが、真理を自分自身に当てはめることをせず、自分たちに与えられた命令を実行しなかった。後に続いた結果は、主の警告と嘆願を拒むときに必然的に続く結果である。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホワイト・コメント] 7 巻 964)

わたしたちには、たえず福音の単純さを越えてしまう危険性がある。多くの人の側で、人々を霊的な恍惚状態に持ち上げるような何か独創的なことで世を驚かせ、今の経験の種類を変えたいという強い願望がある。たしかに現在の経験の種類に大きな変化が必要である。なぜなら、現代の真理の神聖さを悟るべきほどに悟っていないからである。しかし、わたしたちが必要としているのは心の変化であって、個々人が神の祝福を神に求めることによって、またこのお方にそのみ力を嘆願することによって、このお方の恵みがわたしたちにもたらされ、わたしたちの品性を変えられるように熱烈に祈ることによつてのみ、得ることができる。これこそ、わたしたちが今日必要としている変化である。そしてこの経験を得るためには、わたしたちは辛抱強い活力を働かせ、心からの真剣さを表すべきである。わたしたちは真心からの誠実さをもって、「救われるためには何をしたら良いでしょうか」と尋ねるべきである。わたしたちはまさに天に向かってどのような歩みを進めているかを知るべきである。(ビュー・アンド・ワールド 1892 年 3 月 22 日)

完全にキリストのように

「弟子はその師以上のものではないが、完全な者は、みなその師のようになろう。」
(ルカ 6:40 英語訳)

生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。(初代文集 149)

純粋な思想、高尚な願望、はっきりとした真理の理解、行動の高尚な目的、完全に到達したいという憧れは、すべての真のクリスチャンの経験となる。これらの人々は御父と御子との交わりがある。彼らはたえず神の知識において増し加わっている。彼らは敬神と真理と愛のうちに成長する。しかし、彼らが品性の完全に近づけば近づくほど、彼らはますます深く自分たちがキリストに似ていないことを感じるようになり、ますます自分自身に対する不信が大きくなり、ますます神への依存が大きくなる。これらの人々がキリスト・イエスのうちに満ちみちた男女の高さにまで成長しているとき、彼らは他の人々から求められ、彼らと交わるすべての人々にとって助けとなり、祝福となる。もっともキリストに似ている公言者は、もっとも親切で、同情深く、礼儀正しい人々である。彼らの確信は固く、彼らの品性は強い。なにものも彼らをその信仰からそらすことはできず、また彼らを魅惑してその義務から離れさせることもできない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 9 月 8 日)

もし、わたしたちが〔神〕と共に協力して建設するなら、わたしたちの建てる建築物は、建設者の主人であるお方のみ手の下で、日に日にますます美しく、ますます均整の取れたものとなり、永遠を通じて、それは持ちこたえるのである。

聖化は漸進的な働きである。それは継続的な働きで、人間を高くさらに高く導く。それは愛を後ろに置き去りにすることなく、それをまさにキリスト教の本質として人生に持ち込む。

キリストはわたしたちに、「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と言われる(マタイ 5:48)。このお方がわたしたちの模範であられる。その地上生涯の間、このお方はいつも親切で優しくあった。このお方の感化力はいつも芳(かぐわ)しかった。なぜなら、このお方に完全な愛が宿っていたからである。このお方は決して不機嫌であつたり、近寄りがたいことがなかったし、また決して気に入られるために悪と妥協なさることもなかった。もしわたしたちがこのお方の義を持っているなら、わたしたちも親切と、寛容と、無私の愛においてこのお方ようになる。わたしたちはこのお方のご臨在の日光のうちに宿り、このお方の恵みに溶かされないであらうか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 1 月 14 日)

12月22日

完成を目指して進む

「完成を目ざして進もうではないか。」(ヘブル 6:1)

クリスチャン品性を完成するために、わたしたちは、単に静かな抽象的な祈りの人生も、あるいは、個人的な敬神をなおざりにしながら、ただ外面的な熱心と忙しい興奮ばかりの人生を助長すべきではない。かえって、現代は、わたしたちが主の来臨を待ち望み、同胞の救いのために油断することなく働くことを要求している。(教会への証 2 巻 673)

わたしたちは、信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げるにより、日々新しい経験を受けないかぎり、だれも安全ではない。わたしたちは日毎にこのお方を見つめ、そのかたちに変えられていくべきである。神の属性をあらわし、どのような価を払ってもイエスのみ足の跡に従うべきである。わたしたちは自らを神の導きのもとにおき、神のみ言葉に尋ね、日毎に、これは主の道であろうか、と問うべきである。まったくキリストに似ておらず、しかもキリストの教会の中にさまざまな奇妙な品性がある。しかし、彼らが屈服して陶器師の手の内にある粘土となり、喜んで天の型を受け入れ、神が自分たちを形作ろうとお選びになるとおりの器にかたどられるのでないかぎり、彼らはつねに自分たちの品性の欠陥を身に帯び、常に誉を汚す器であり、決して不死の仕上げの一触れを受けることはない。品性の欠陥に不死が与えられ、その不完全さで天が損なわれることはない。

.....

野生の地面に這う傾向をもって延びていく葡萄は、小枝や株を捕らえ、その巻きひげを地にある物にしっかりと結びつける。であるから、それをしかるべき支柱に巻きつかせるためには、その巻きひげのはりついていた偽りの支柱から切り離さなければならない。魂の場合も同様である。地上の支えは取り除かれ、思想と愛情は自分の支えを神に見出すように、訓練されなければならない。(ビュ・アンド・ヘルト 1894 年 11 月 20 日)

わたしたちは地上歴史の終わりに近づいている。今やわたしたちがクリスチャン品性を完成させるための時間はわずかしかない。しかしイエス愛する者は、このお方の血で買われた人々を愛する。過ちに陥っている人々を助けるために、もっと多くの忍耐を働かせ、もっと多くの努力がなされなければならない。(原稿リ-ス 10 巻 11)

完全は忍耐を通してくる

「あなたがたの知っているとおり、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」(ヤコブ 1:3, 4)

人生は訓練である。クリスチャンは世にいる間、逆作用の感化力に直面する。気質を試すような挑発があるであろう。そしてこれらに正しい精神で対処することによって、クリスチャンの恵みが発達するのである。もし不当な扱いや侮辱を柔和に受け止めるなら、もし侮辱的な言葉に優しい答えを、威圧的な行為に親切をもって応じるなら、これこそキリストの御霊が心に宿られ、生けるぶどうの木からの樹液が枝に流れている証拠である。わたしたちはこの世でキリストの学校にいるのであり、そこで柔和と心のへりくだりを学ばなければならない。そして最後の審判の日に、わたしたちは、自分たちの直面するあらゆる妨げや、わたしたちが耐えるようにと命じられているすべての苦難や困惑は、クリスチャンの生涯の原則を自分のものとする実際的な授業であることがわかるようになる。もしよく耐えるなら、彼らはキリストのような品性を発達させ、世俗的な者からクリスチャンを区別する。

もしわたしたちが神の子になりたければ、到達すべき高い基準、気高く、純潔で、聖であり、汚れていない、高い基準がある。そして、もしわたしたちがこの基準に達したいのであれば、刈り込む過程は必要である。もし直面すべき困難、打ち勝つべき障害、忍耐と辛抱を強く必要とするべきものが何もなければ、この刈り込みはどのように成し遂げられるであろうか。これらの試練は、わたしたちの経験における最も小さい祝福なのではない。それによって、わたしたちは成功しようと決意する勇気が与えられるのである。わたしたちはそれらが自分を妨げ、圧迫し、破滅させるのを許す代わりに、自己に打ち勝ち決定的な勝利を得るための神の財産として、それらを用いるべきである。

品性はテストされる。もしわたしたちが本当に生きたぶどうの枝であるなら、キリストがわたしたちの内にあらわされる。わたしたちは焦燥といらだちのただなかで、忍耐強く、親切で自制心があり、快活である。日々、年々わたしたちは自己に打ち勝ち、気高い英雄的資質へと成長する。これはわたしたちに割り当てられた仕事である。しかし、イエスからの絶え間ない助け、断固たる決心、揺れ動くことのない目的、継続的な見張り、絶えざる祈りなしには、これを達成することはできない。(教会への証 5 巻 344, 345)

12月24日

もしあなたが完全になりたいと思うなら

「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施さない。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。」(マタイ 19:21)

〔神は〕ご自分の働きを進めるために天から財産を送ることがおできになった。しかしこれはこのお方の方法ではない。このお方は人々がご自分の道具となることを、また彼らを贖うために大なる犠牲が払われたために、彼らがこの救いの働きにおいて役割を果たし、互いのために犠牲を払うことによって、またそれにより彼らがいかに自分たちのために払われた犠牲を高く評価しているかを示すべきことをお定めになった。

わたしはヤコブ 5:1 ～ 3 へと注意を向けられた。「富んでいる人たちよ。よく聞きなさい。あなたがたは、自分の身に降りかかろうとしているわざわいを思って、泣き叫ぶがよい。あなたがたの富は朽ち果て、着物はむしばまれ、金銀はさびている。そして、そのさびの毒は、あなたがたの罪を責め、あなたがたの肉を火のように食いつくすであろう。あなたがたは、終りの時にいるのに、なお宝をたくわえている」。

この恐るべき言葉は、とくに現代の真理を信じると公言する金持ちに当てはまることをわたしは見た。主は彼らにご自分のみ事業を進めるために彼らの財産を用いるようにと命じておられる。彼らに機会が提供されるが、彼らはみ事業の欠乏に目を閉じ、自分たちの地上の宝にしっかりとしがみつ়。世への彼らの愛は真理への愛、同胞への愛、神への愛よりも大きい。神は彼らの資産をお求めになるが、彼らは利己的に、食欲に自分の持っているものを持ち続ける。自分の良心をなだめるために、折にふれて少々は捧げるが、この世への愛に勝利しようとはしない。神のために犠牲を払おうとしない。主は、永遠の命を重んじ、魂の価値の何かを感じ、悟ることのできる他の者を起こされた。そして、彼らは神のみ事業を前進させるために、自分の財産を喜んでお捧げする。働きは閉じつつある。そしてまもなく自分の富、大きな農場、家畜を持続けていた者の財産は求められなくなる。主は怒りと憤りをもってそのような者に向かい、「富んでいる人たちよ。よく聞きなさい(去りなさい)」とのみ言葉を繰り返される。このお方は呼ばれたが、あなたは聞こうとしなかった。この世の愛がそのみ声をかき消してしまった。今このお方はあなたに用はない。だからあなたに富んでいる人たちよ。よく聞きなさい(去りなさい)」とお命じになり、そのまま去らせられるのである。(教会への証 1 巻 174, 175)

主は、わたしたちが財産というタラントをどのように用いたかの忠実な記録を個人的に、わたしたちに要求される。(レビュー・アンド・ペアルド 1879 年 2 月 6 日)

完全へと強められる

「神はわたしに力を帯びさせ、わたしの道を安全（完全）にされました。」（詩篇 18:32）

すべての者は品性に欠陥がある。すべての者が時々刻々神の助けを必要としている。さもなくば彼らは間違いなく失敗する。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882年7月27日）

わたしは、安っぽい標準にしか達しようとしないう若い男女に話をしたい。ああ、主が彼らの思いに感化を与え、品性の完全が何であるかを見ることができるよう！ああ、彼らが愛によって働き、魂を純潔にする信仰を知ることができるよう！わたしたちは、危険な時代に生きている。キリストだけがわたしたちを助け、わたしたちに勝利を与えることがおできになる。キリストがわたしたちにとって、すべてのすべてでなければならぬ。このお方が心のうちに宿ってくださらなければならぬ。血液が血管の中を循環するように、このお方の命がわたしたちの中を循環しなければならぬ。このお方の御霊が命を与える力となって、わたしたちが他の人たちにキリストに似た聖なる者となるような感化を与えなければならぬ。（ユース・インストラクター 1895年10月31日）

心と魂と声とが、〔神〕に捧げられ、それらが卓越の極み一神のご品性に似たもの—にまで到達できるべきである。すべての機能、主がわたしたちに授けてくださったすべての特質は、人類同胞を向上させるために用いられるべきである。もしわたしたちが自分の最善を尽くし、無我の精神をもって働くなら、主はわたしたちの奉仕を受け入れてくださる。（この日を神と共に 71）

救い主は、誘惑と試みを受けている人たちのそばにおられる。イエスといっしょなら、失敗も損失も不可能も敗北もない。われわれは、われわれを強くしてくださるイエスを通してすべてのことをなすことができる。（各時代の希望中巻 293）

わたしたちが享受しているあらゆる恩寵と祝福は、ただ〔神〕からである。わたしたちはこのお方の恵みとこのお方の一時的な賜物の管理者である。もっとも小さなタラントやもっともつつましい奉仕を、聖別された賜物としてイエスにお捧げすることができ、またご自身の功績の香をもって、イエスは御父にそれを提示なさるのである。もしわたしたちのもっている最高のものを、真心をもって、神への愛のうちに、そしてイエスに奉仕をしたいという切なる願いから差し出すなら、その賜物は完全に受け入れられる。すべての人が天に宝をたくわえることができる。すべての人は「良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、こうして、真（永遠）のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築き上げる」ことができる（テモテ第一 6:18, 19）。（ビュー・アンド・ヘアルド 1893年6月20日）

12月26日

強められ、不動のものとされた家族

「あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふる恵みの神は、しばらくの苦しみの後、あなたがたをいやし（完全にし）、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。どうか、力が世々限りなく、神にあるように、アメン。」（ペテロ第一 5:10, 11）

わたしたちは、熱烈な祈りと深く真剣な探求を通して、強められ、不動のものとされ、信仰に根ざし、基をおき、そして、各々自分で、真理を持っていることを知らなければならない。もし、わたしたちがこのように確立されるなら、テストされたり、試みられたりするときに、信仰から離れることはない。……

あなたは祈らなければならない。そして信仰と教理のすべての点において、真理を探らなければならない。あなたは、批判的な反対する審議会の前に連れ出されるであろう。あなたは、自分の信仰のために裁判にかけられ、教理のすべての点に、しっかりとした基礎があることを知りたいと思うことであろう。（ビュー・アポド・ヘラルド 1888年9月4日）

どれほど真剣な努力をもって、わたしたちは一致を、一つになることを求めるべきことであろう。教会はキリストの模範にならう苦しみを通して完全にされる。このお方のみかたちに変えられることによって、わたしたちはこのお方と一つになるのである。

わたしたちは神聖な啓発を求めて祈るべきであるが、それと同時に、新しい光と言われるすべてのものをどのように受けるか気をつけるべきである。わたしたちは警戒していなければならない。さもないと、新しい真理を探究するという覆いの下、サタンはわたしたちの思いをキリストとこの時代のための特別な真理からそらさせるのである。わたしは何か不明瞭で重要でない点、すなわち完全には明らかにされておらず、わたしたちの救いにとって不可欠でもないことをいつまでも考えるように導くのが敵の策略であることを示されてきた。これがすっかり注意を奪う主題、「現代の真理」とされるが、彼らのすべての研究と推測はただ事態を以前よりも不明瞭にし、真理の聖化を通して一つになることを求めているべき人々の思いを混乱させるだけである。（原稿リクス 14 巻 178）

信仰に基をおき、不動のものとされるのは、すべての人の特権である。愛によって働き、魂を清める信仰を働かせる人はだれも、福音の望みから動かされてしまうことはない。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年9月4日）

神が賜った自分の力を働かせないクリスチャンは、キリストへと成長するのに失敗するばかりでなく、すでもっている力も失う。彼は霊的な麻痺状態になる。真理のうちに強められ、力づけられ、不動のものとされるのは、神と人類同胞への愛をもって、他の人を助けようと奮闘している人々である。（教会への証 5 巻 393）

愛のうちに完全にされる

「わたしたちもこの世にあって彼のように生きているので、さばきの日に確信を持って立つことができる。そのことによって、愛がわたしたちに全うされているのである。愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。恐れには懲らしめが伴い、かつ恐れる者には、愛が全うされていないからである。」(ヨハネ第一 4:17, 18)

キリストが世にあられたように、このお方に従う者の場合も同様である。彼らは神の息子であり、キリストとの共同相続人であって、王国と統治権は彼らに属する。世は彼らの品性と聖なる召しを理解しない。彼らが神の家族に養子になったことを知らない。……彼らは知らない人である。世は彼らを知らず、彼らを動かす動機を正しく理解しない。

世はその破滅のために熟しつつある。神が罪人に耐えることがおできになるのもあとわずかである。彼らは憐れみの混じらないこのお方の怒りの杯を飲み尽くさなければならない。神の相続人、不死の嗣業をつぐキリストとの共同相続人となる者は、特殊な者である。しかり、非常に特殊なので、神は彼らをご自分のものの、完全にご自分のものとして彼らの上に印を押される。……だれが主の側におり、イエスを恥としない者であるかがまもなく分かる。不信心者の面前で良心的に自分の立場を取り、世の流行を離れ、キリストの自己犠牲の生涯を模倣する道徳的勇気を持っていない者は、このお方を恥じて、その模範を愛さない。(教会への証 1 巻 287)

主人であるお方は福音の働き人を召しておられる。だれが応えるのであろうか。軍隊に入るすべての者が将軍、大尉、軍曹、あるいは伍長ですらないのである。すべての者が指導者の気苦労と責任を担っているのではない。果たすべき他の種類の困難な働きがある。ある者は塹壕(ざんごう)を掘り、ある者は要塞を建造しなければならない。ある者は歩哨として立ち、ある者はメッセージを伝えなければならない。将校はわずかしかない一方で、軍隊の縦列、横列を作るために多くの兵士が必要とされる。そしてその成功は兵士一人ひとりの忠誠にかかっている。一人の臆病もしくは裏切りが、軍全体に大惨事をもたらし得るのである。

その能力に応じて「それぞれ仕事を割り当て」ておられるお方は、忠実な義務の遂行が報いを受けずにいるようなことは決してなさらない(マルコ 13:34)。忠誠と信仰の一つ一つの行為は、神の恩寵と是認の特別なしるしをもって冠されるのである。(レビュー・アソッド・ハルッド 1912 年 5 月 23 日)

12月28日

見られる神の栄光

「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあらわれる。」(イザヤ 60:1, 2)

主は、この時代のための真理の光を持っている男女が、本物の個人的な伝道の働きに携わるようにと召しておられる。……神の召しに完全に服する者のために蓄えられた大いなる祝福がある。そのような働き人がイエスに魂を勝ち取ることにとりかかるとき、彼らは、他の方法では決して心に触れることのできなかったはずの多くの人が、知的な個人的な努力に応えるのを見出すようになる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1910 年 4 月 7 日)

すべてを神に捧げている者が、魂の敵に悩まされないままでいることはない。サタンは、彼らをそそのかして神への忠誠からそらそうともくろみ、もっともらしい誘惑をもって彼らのところへ来る。彼は、誘惑の荒野でキリストに、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」と言って、自分の賄賂(わいろ)を提示したように、彼らにも提示する(マタイ 4:9)。しかし悪者のすべての誘惑に対するクリスチャンの答えは何であるべきであろうか。彼は「わたしはいかなる方法においても、キリストのみ事業以外の何かの発展のために自分の感化力を貸すようなことはしない。わたしは自分自身のものではなく、価をもって買われたのである。わたしは自分を喜ばせるために生きることはしない。なぜならわたしは買われた者であり、キリストの血で贖われたからである。わたしにとってこのお方に属するもの以外をお捧げすることは不可能である。なぜなら、わたしの命の毎瞬間が、このお方に属しているからである。わたしはこのお方の所有物であり、主人であるお方のみ旨を行うために雇われた僕である」と言うべきである。これがわたしたちの占めるべき唯一安全な立場である。そしてもし個々の教会員がこのように感じていたら、教会は魂を引きよせてキリストに勝ち取るために、どれほどの力を発揮したことであろう。神と悪魔に同時に仕えようとする努力は、教会を神の御霊に非常に欠けたままにする二心の働きである。教会員が神に自らを捧げているなら、彼らが平安のきずなのうちに、御霊の一致のうちにいるなら、また彼らが善の感化力を他の者に分け与える目的のために組織されているなら、教会は本当に世の光である。(ホーム・ミッショナリー 1892 年 10 月 1 日)

神の御霊に明け渡されたタラント

「わたしは、かわいた地に水を注ぎ、干からびた地に流れをそそぎ、わが霊をあなたの子らにそそぎ、わが恵みをあなたの子孫に与えるからである。」(イザヤ 44:3)

主は「だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」と仰せになった(マタイ 9:38)。いたるところに有用な働きを必要とした畑が開かれている。しかし働き人を任命して有用な働きを必要としているさまざまな持ち場へ送るべき人々は、困惑という重荷を負っている。なぜなら彼らは、働きのこれらの責任にふさわしい男女を探しても無駄だからである。男女に収穫の畑に出かけるようにとの召しがなされると、その召しに次のように答えることのできる人がいるように、今こそ、教会員が伝道の働きに携わるための教育を受けた人になるべき時ではないだろうか。「わたしたちは無条件に自分をキリストに捧げています。わたしたちは自分も家族も衣服や生活の単純さを教育してきました。わたしたちは克己に慣れており、自分たちが主に属していることを自覚しています。わたしたちにはこのお方のみ旨を行い、自分を喜ばせる生活をせず、主人であるお方に魂を勝ち取るより他の願いはありません。わたしたちは遠い地に移り、キリストの旗を掲げ、単純さとへりくだりのうちに真理を生きる準備ができています。」

イエスは天にあるご自分の家を離れ、この暗い世界に人間の悲哀のきわみにまで到達するために来てくださったが、それはまさに滅びようとしている人々を救うことがおできになるためであった。これが、このお方が墮落した人間に示してくださった愛である。しかし弟子はその主人であるお方に勝るであろうか。僕は彼の主より偉大であろうか。もしわたしがほんとうに神との共労者であるなら、わたしはこのお方のみ事業のために幾分かの犠牲を払うようにとの召しを受けないであろうか。だれでもキリストに従う者にとって、自分にまかされているわずかの所有物をたずさえて、地の暗い場所へ出かけ、人々が真理をほとんど聞いたことのないその場所で、柔和とへりくだりのうちに、主が人の子らのために何をしてくださったかを人々に知らせることが、大きすぎる犠牲であろうか。(ホーム・ミッションナリー 1892年10月1日)

神は、ご自分が人間に委託しておられる一つ一つの力の完全な所有権を持っておられる。このお方は、ご自身の知恵によって、神の一つ一つの賜物の使用条件を設けられる。このお方はご自身の御名の栄光のために発揮する一つ一つの力の適切な使用を祝福される。(高い召し 40)

12月30日

み約束は確實

「その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ。」(ヨエル 2:29)

御霊の約束は、ちょうど最初の弟子たちと同じように、今日わたしたちのものである。神がペンテコステの日に救いのみ言葉を聞いた人々に上よりの力を授けられたように、今日も男女に授けられる。まさにこの時、このお方の御霊とこの方の恵みは、それらを必要とし、このお方をその言葉通りに信じるすべての人のためである。

御霊が注がれたのは、弟子たちが完全な一致に到達し、もはや最高位を求めて争わなくなったときであることに注目しなさい。彼らは一致していた。すべての相違は捨てられた。そして彼らが御霊を受けた後に担った証は同じであった。次の言葉に注目しなさい。「信じた者の群れは、心をつにし思いをつにして……いた。」(使徒行伝 4:32)。罪人が生きられるために死なれたお方の御霊は、信徒の全会衆を活気づけた。

弟子たちは自分たちのために求めたのではなかった。彼らは魂の重荷を感じていた。福音が地の果てまで伝えられなければならなかった。そこで、彼らはキリストが約束された力が授けられることを要求したのである。そのとき、聖霊が注がれて、一日に何千もの人々が改心した。

今も同様である。クリスチャンはすべての不一致を捨て、自らを失われた者の救いのために、完全に神に捧げよう。彼らに信仰のうちに約束の祝福を求めさせなさい。そうすればそれはもたらされる。使徒たちの時代の御霊の注ぎは「秋の雨(前の雨)」であり(ヨエル 2:23)、その結果は栄光に満ちていた。しかし、後の雨はさらに豊かなのである。……

御霊の賜物こそ、わたしたちが力を受ける手段なのであるから、それに飢え渴こうではないか。それについて語り、そのために祈り、それに関して宣べ伝えようではないか。主は、親が自分の子に良い賜物を送ろうと思う以上に、快く聖霊を与えたいと思っておられる。……

神の働き人に伴う御霊のご臨在は、真理の提示に、世のすべての誉れや栄光が与えることのできない力を与える。御霊はすべての危急時に奮闘し格闘している魂を支える力を与える。(教会への証 8 巻 20, 21)

慰めの時

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかねばならなかった。」(使徒行伝 3:19 ～ 21)

わたしたちはあなたがたが主の側に立場をとるように、そして王国の忠実な臣民として役割を果たすようにと求める。地上歴史の終幕において神の民の導きのために教会におかれてきた賜物を認めなさい。はじめから神の教会はそのただ中に、勧告し、訓告し、指示する生きた声として預言の賜物を持っていた。わたしたちは今や第三天使の働き最後に至っており、サタンは自分の時が短いことを知って力を増し加えて働くであろう。同時に、わたしたちには聖霊の賜物を通して、御霊の注ぎのうちにさまざまな働きがもたらされるであろう。今は後の雨の時である。(原稿リ-ス 5 巻 151, 152)

わたしたちは個々に自分たちの真の立場、すなわち神に雇われた僕として自分たちの管理職を売り渡してはいけないことを自覚しているであろうか。わたしたちは天の宇宙の前で個々に、神からわたしたちにゆだねられた委託物を管理する責任がある。わたしたち自身の心がかき立てられなければならない。わたしたちの手には、神がわたしたちにゆだねられた所得の中から与えるための何かがなければならぬ。わたしたちのうちでもっともつましい者も神のために代理者となり、自分たちの賜物をこのお方の栄光のために用いることができる。能力の限りを尽くして自分のタラントを活用する人は、自分の捧げものを、神のみ前のかぐわしい香のように聖別された賜物として提示することができる。自分のタラントを活用するために最善をなし、それらがお返しすべき賜物として生かされていることを確かめることは、すべての人の義務である。(特別な証 A シ-ズ No.9, 18, 19)

神がご自分のためになされるあらゆる不思議は、もっとも単純な方法でなされてきた。神の民がこのお方に完全に献身するとき、そのときこそ、このお方は地上におけるご自分の働きを前進させるために彼らをお用いになる。しかし、わたしたちはいかなる成功がわたしたちに伴おうとも、栄光と誉れは神に属することを覚えているべきである。なぜなら、すべての能力と力は神からの賜物だからである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881 年 6 月 30 日)。

しょう。まずまちがいなく、彼はかぜをひいたり、おたふくかぜになったり、はしかになったり、水ぼうそうになったり、あるいは虫歯になったことさえなかったでしょう。神は彼をくすしく造られたので、アダムはそのすばらしい健康と強さを、その長い長い生涯のほとんどのあいだ保っていたことでしょう。ただ老齢によって彼は弱くなり、ついに、神がエデンで警告されたように、横たわって死ぬことになり、こうして、ちりからつくられたから、ちりに帰ることになりました。

さて、もしアダムが 900 歳をこえて生きたとしたら、たしかに彼は自分の息子たちが成長するのを見たばかりでなく、自分の孫たち、ひ孫たち、さらにその先の孫が成人になるのを見たことでしょう。

彼が死ぬまでに、何代にも至る子孫がいたはずです。わたしは何代と言えよいかははっきりわかりません。もし彼が 930 歳の誕生日に親族全員あつめて誕生日を祝ったとしたら、そこには何千もの人が集まったことでしょう。

もしこれらすべての人がアダムからの子孫だとすれば、そして事実その通りだったのですが、彼らはみな互いに血縁関係にあったのです。兄弟や姉妹、おじやおば、甥（おい）や姪（めい）、いとこやはとこたちです。こうしてはるか昔の地上の人口は、大きな一つの家族でなりたっており、アダムがその最年長の父でした。

きんぴら

■材料

ごぼう	2 本
にんじん	1 本
レンコン	150 グラム
水	1 カップ (野菜の量で調整してください)
黒糖	大さじ 2
しょうゆ	大さじ 3
昆布顆粒だし	小さじ 1 (好み)
白いりごま	適量
ごま油	適量

■作り方

1. ごぼうは皮付きのままさがきにします。水に 10 分ほどさらし、水気を切ります。
2. にんじんも皮付きのまま、細切りにします。
3. レンコンは皮をむいて、うす切りにします。
4. フライパンに水を入れて沸かし、野菜、昆布顆粒だし、黒糖を入れて、弱火でふたをします。
5. 野菜に火が通ったら、ふたを開けて、水気を飛ばします。
6. その後、しょうゆを入れてなじむまで炒めます。
7. 火を止めてから、ごまごま油を加えます。

★油を加熱せずに使用すると、健康度があがります。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

☐ 福音の宝

☐ 聖所真理

お申込先 : sdarm.shomaru@gmail.com



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

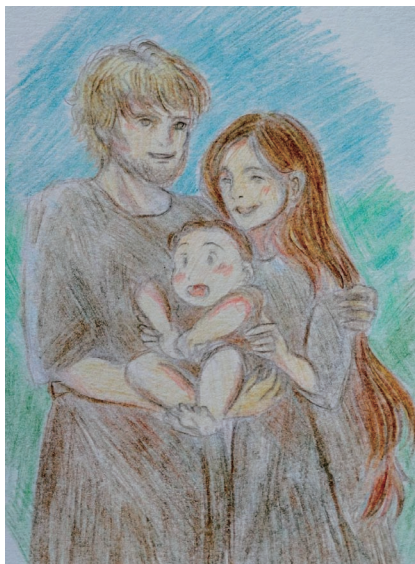
パート2 第18話

アダム最後の誕生日(1)

小さな男の子セツが生まれたとき、アダムは130歳でした。わたしたちにとっては、とても年をとっているように聞こえますが、当時でいえば年よりではありませんでした。事実、アダムはそのときまだ、自分の人生を始めたばかりでした。彼はその後800年生きたのです。

信じがたいように見えるかもしれませんが、アダムの最後の誕生日のとき、彼は930歳でした。もし皆さんのようにろうそくを立てる誕生日ケーキがあるとしたら、それはどんな光景だったことでしょうね！

おそらくあなたは「そんなに長く生きられる人はいないよ！」と言うかもしれません。しかし、ちょっと待ってください。覚えていますか、アダムは、創造の六日目に神さまご自身が創造された最初の人なのです。ですから、彼はかつて生存した中で最も完全につくられた人でした。彼の心臓、肺、筋肉は、神ご自身のみ手によるもので、永遠に続くように造られました。



た。事実、もし罪を犯さなければ、永遠に続くはずだったのです。しかし、彼のひとつの悲しい過ち（あやまち）のために、彼はいのちの木から取って食べてずっとずっと生きることはかなわなくなりました。

さらに、今はよくある病気が若いうちから亡くなる原因となっていますが、世界歴史の始まりには、それらが一つもありませんでした。何百年もの間、アダムはおそらく病気になるということがどういうことか知らなかったことで

(67 ページに続く)